VR 8K HDR
Collaborative Workflows
via
Quantum®
Authorized Reseller Ngc Mail:bsi@ngc.co.jp

映像新聞
平成29年（2017年） 10月16日 第2308号

株式会社 映像新聞社
112－0006 東京都文京区小日向1丁目24番8号エイゾービル
電話（03）3942－2161（代表）
ファックス（03）3942－2581
毎週月曜日発行（月4回発行）
昭和42年1月25日 第3種郵便物認可
1部600円、年間購読料26,000円（税別）

Eizoshimbun 50th Anniversary 50th SINCE 1966

Visual Communications Journal

©映像新聞社

VRへの取り組み拡大

制作力生かすビジネスツール

ローカル局

ローカル局のVR（仮想現実）への取り組みが広がっている。VRは360度映像を使ってユーザーにさまざまなバーチャル体験を提供できる。各局は番組制作力をビジネスにつなげるツールとして期待しているようだ。

比較的容易にVR制作ができるシステムや、制作をサポートするプロダクションが出てきたことも背景にある。

鹿児島テレビ放送（KTS／鹿児島市）、テレビ西日本（TNC／福岡市）の取り組みを取材した。KTSは既に10本以上のVR映像を制作している。

KTSは今年2月から「KTS VR」を開始している。VRに取り組んだ経緯について、KTS編成業務局の崎山雄二氏は、「市役所など自治体と仕事をする中で、インバウンドによる観光収益への期待を感じていた」という。

しかし、KTSは県域放送であり、地域のことをよく知っているにもかかわらず、県外向けの情報発信に貢献することが難しいというジレンマがあった。

そうした中で目に留まったのがVRで、崎山氏は「VRの360度映像はダイナミックで、現状を打破するのに最適かつ可能性のあるツールだと考えた」と話す。

そこで、放送局としての番組制作ノウハウを生かす形で、県内の各自治体にVR映像制作の営業を展開する。これに最初に賛同してくれたのが鹿児島県長島町であった。このVR映像制作が「KTS VR」の契機になっている。

長島町のVRでは、同町の基幹産業で、鹿児島県が日本一の養魚生産量を誇る「ぶりの養殖」をはじめ、焼酎の仕込みや赤土じゃがいもの栽培などを疑似体験できるVR映像を制作。「長島町VR」として自社サイトおよびYouTube、さらにTNCが運営している「VR kyushu」で公開している。

このVR映像は話題を集め、ほかの自治体からの引き合いが来ており、ビジネスの可能性が開ける展開となっている。

ただ一方では、自治体向けの提案はそう簡単には通らない。KTSではVR映像を視聴する一般の人たちに飽きられないよう、種子島でのH2Aロケットの打ち上げの様子や、鹿児島の風物詩「六月灯」を女子アナとバーチャル体験できるコンテンツなど、地域色のあるVR映像も独自に制作・配信している。

KTSではVR映像制作を開始するにあたり、専門のプロダクションと契約。担当社員が一連の制作技術を学んだ。

現在はVR制作ツールとして、GoPro Hero6台を一体化したVRカメラ「GoPro OMNI」とGoPro専用のビデオスティッチ（360度の映像を張り合わせること）、ステッチのずれ軽減、編集の各ソフトウエアなど、一連の制作環境を社内に整備。撮影からステッチング、アプリでの配信まで、すべてのVR映像制作業務を自前で実施している。

崎山氏は「360度の映像制作は、従来とは別のノウハウも必要。制作の都度、よりプロフェッショナルな技術が必要であることを痛感している」と述べた。

VR映像の制作技術業務は、番組推進室の桐野俊策氏が担当。同氏は、番組制作技術、制作ディレクターの経験があり、その延長線上の形でVR映像制作にかかわっている。

KTSはこれまで、長島町からの受注映像、独自制作ものなど10本以上のVR映像を制作。この中には、アーチストのイベント用プロモーション映像も含まれている。

KTSでは来年度に向け、自治体などへの提案活動を開始している。桐野氏は「これからも鹿児島に特化したVR映像制作を撮っていければ」と話している。

TNCは、16年8月から、九州に関連したVR映像を発信する「VR九州プロジェクト」を開始した。〈3面に続く〉

KTS 自治体に映像制作売り込み
長島町に地場産紹介企画が採用



シャープは「CEATEC JAPAN 2017」において、12月に国内発売する民生用8K対応液晶テレビを出展＝写真。「CEATEC AWARD 2017 部門賞」のホーム＆ライフスタイル・イノベーション部門のグランプリを受賞した
<詳細5面、関連記事3面>

大型映像業界特集 10－15面

本号の主な記事

［プロダクション］
IMAGICAウェストがフィルムのライフサイクルをサポート……2
［放送］
データで見るメディア 視聴率と秋編成①……6
IBC2017報告④ DVBがTVに新機能……7
［プロ機器］
池上通信機がSAMと放送機器販売で提携……9

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

ビジュアリロスレス 業界標準 SDIインターフェース
TICO SDIコンバータ：VICO-4
4K60pも業界標準の3G-SDI同軸ケーブル1本で接続
● 信頼性の高い3G−SDI対応インターフェース
● HD伝送環境のままUHD伝送環境へ移行
● 中継車・スイッチャーのインターフェースとして最適
● ストレージ用としてもストレージコストを1/4に圧縮
● 小型、薄型、1RUタイプ
《VICO-4 フロントパネル》
STATUS LED 電源スイッチ
《VICO-4 リアパネル》
AC 入力 BNC x 8
お問合せ先 株式会社ヴィレッジアイランド
〒108-0071 東京都港区白金台 3-19-1 興和白金台ビル 5 階
TEL:03-6409-6206 FAX:03-6409-6207 Email:sales@village-island.com
VILLAGE island www.village-island.com

MULTI FORMAT CONVERTER
NEW XC 2 SERIES
2つのビデオプロッセッサ搭載
スーパーインポーズ・P in P 表示
HDMI・DVI・3G/HD/SD-SDIの広範囲な各種デジタル映像信号を2入力2出力で相互に変換するマルチフォーマットコンバータです
XC 2 ベーシックモデル XC 2 sio SDI入出力対応
株式会社 デジタルアーツ
http://www.digitalarts.co.jp

LAWO NAV & Control
V__matrix SOFTWARE-DEFINED IP CORE ROUTER & PROCESSING PLATFORM
未来のコンセプトを現実のものに
既存のハードウェアの概念から開放された、バーチャルモジュールによるソフトウェアデファインドIPコア
大容量の汎用IPスイッチを中核としてIPコアをネットワーク上に配し、バーチャル・ルーター・プロセッサーを構築
既存のシステム以上の可用性、柔軟性、拡張性を実現します
AIMS Media Networking Alliance RAVENNA

grass valley A BELDEN BRAND
ライブイベント中継システム
既存のレンズ環境にそのまま適応
HDR - HLG /ST 2084
15 Fストップのダイナミックレンジ
広色域 - BT.2020
IP入出力 - SMPTE 2022-6 /TICO
Native 4K *
HiSpeed (3X)
XtremeSpeed (6X)
LDX 86N シリーズ
LDX 86 シリーズ
B4 マウントカメラ
K2 Dyno Universe
リプレイシステム
＊いずれの機能もオプションにより対応
＊Native 4K 対応はLDX 86N
スチューダー・ジャパン－ブロードキャスト株式会社 映像システム部 システム提案、設計、施工
〒108-0022 東京都港区海岸 3-3-8
03-5730-0780 www.studer.co.jp

IMAGICAウェスト

フィルムのライフサイクルをサポート

修復作業から保管環境の提案まで

IMAGICAウェスト（大阪市北区）は、フィルムに関するサービスを拡充。顧客が今後も資産として活用できるようフィルムを良好な状態に保つことを目指し、修復や復元、再活用などの作業から保存環境の提案までフィルムのライフサイクルをトータルでサポートしていく。9月には関連のセミナーを大阪と東京で開催し、関係者にサービスを訴求した。

フィルムのアーカイブとそのための修復作業は近年、メディアの多様化とコンテンツの必要性の高まりから活発化している。しかし、実際のフィルムの保存環境はさまざまで、経年によって酢酸ガスが溜まり劣化が促進される「ビネガーシンドローム」が発生していることは珍しくない。

一方で厚生労働省は2016年、酢酸を含む約640種類の化学物質を、人体に悪影響を与えるものとして「リスクアセスメント」の対象に指定した。リスクアセスメントとは、労働者に対する化学物質の危険のレベルを見積もり、リスク低減の対策を取ることを指す。これにより、酢酸の発する「酸っぱい臭い」のもとになる化学物質が引き起こす健康被害のリスクを見積もり、対策を講じることが義務となる。

同社はこれに対し、フィルムの状態の調査から、フィルムの修復やクリーニング、保存と活用に向けた特殊処理、今後の保管環境の提案まで、保有するさまざまな技術を顧客に提供する。

映像事業部フィルムプロダクション・ディビジョンの柴田幹太氏は、「フィルムは50年、100年といった長期の保管が可能だが、それは適切な環境があってこそ。しかしフィルムが保存されている環境は望ましいものとは限らない」とする。「当社はフィルムプロセスの技術と設備を持つと同時に、スキャンやデジタル修復サービスを高い品質で提供する。フィルムをよく知る当社ならではの提案が可能だ」と話す。


柴田氏


フィルムの検査などをする作業場


現像やスキャニングにも注力

同社はフィルムラボとして、作業環境測定士や危険物取扱者などの公的資格を持つスタッフがおり、1950年代まで使用されてきた可燃性のナイトレートフィルムを安全に保管する環境を整備する。

フィルムの内容を簡易確認できる「Tetel e（手テレ）」などの機材開発をはじめ、フィルムの保存環境や修復技術に関するさまざまな研究活動もしている。

新たに、フィルムから出る酸性ガスを効率良く吸着する製品も開発し、発売する。従来、フィルムメーカーにより販売されてきたガス抑制シートが生産中止となったことから、映画フィルムに適したものとして、同社が監修、完成に至った。「シネキープ」の名称で展開する。

同社では現在、修復・復元、複製やデジタル化といった一連のフィルムアーカイブ作業に加え、テレビCMや映画などの現像、スキャニング作業にも力を入れている。

柴田氏は、「当社は、お客様がフィルムを取り扱うための環境検証からフィルム複製、デジタル化、活用や保管に関するコンサルティングまでをトータルサポートし、フィルムを生きた遺産として後世に受け継ぎたい。またそれと同時に表現手段の1つとして若い人にフィルムを伝えられるよう提案したい」と話している。

URSA Mini Pro

イケダケイ氏がMV撮影に採用

ブラックマジックデザイン

ミュージックビデオ（MV）やコンサート映像を演出、撮影するイケダケイ氏は、「URSA Mini Pro 4.6K」を使い、人気アーチストのMVを撮影している。ブラックマジックデザインが発表した。


撮影の様子

イケダ氏は、フィルムのルックに近いカメラとして、URSA Mini ProをKOTORIのMV『Blue』で初めて使った。スチールレンズの単玉にアナモフィックのアダプターをつけ、センサーモードを3Kアナモフィックにして撮影。その後ダビンチリゾルブでデジタル現像し、作品のイメージに合わせてルックを決めた。

ヒステリックパニックやPassCodeのMV撮影でも同機を活用した。自身が監督する際はRAW収録するが、撮影監督の仕事では、プロレゾで収録し監督にデータを渡すなどしている。

イケダ氏は、PLレンズやEFレンズを使えるレンズの自由度の高さやハイスピード撮影、圧縮RAWの質の高さを評価。ウエブCMでは、URSA Mini Proとクックのアナモフィックレンズを利用し、クライアントに好評だったとする。

また、カメラの取り回しが良く、本体だけでも撮影できる手軽さが良いとしている。

RAID

10月限定の販売イベントを実施

レンタルサービスも開始

小輝日文グループのRAIDは、10月限定の販売イベント「OCTOBER SALE」を開催している。

レッドデジタルシネマやスモールHD、タンジェントエレメントなどの企業の人気商品を、10月末まで特別価格で販売する。対象商品などの詳細は同社ウェブサイト（http://www.raid-japan.com）まで。

あわせて、カメラやアクセサリー、モニターなどの取り扱い商品をレンタルするサービス「RAIDレンタル」を始めた。利用目的により2種類を用意している。

「トライアルレンタル」は、対象製品の購入を前提に、購入前に製品を試用するもの。

「プールレンタル」は、購入を前提とした、ポイント付きレンタルサービスで、ポイントはRAIDでの製品購入や、同社で購入した製品の修理に利用できる。

詳細は専用ページ（http://support-raid-japan.com/raid-rental/）まで。

東映デジタルラボ×東映デジタルセンター
Baselight X & ONE
ARRISCAN
Pablo Rio 4KHFR
Scan Station
Cloud Computing
Golden Eye
MA Next
Phoenix
HDR
PFClean
LTO7
Correct
東映ラボ・テック株式会社
－TOEI LABO TECH－
本　　社　〒182-0022 東京都調布市国領町8-9-1　03(3430)3311
銀座営業所　〒104-0061 東京都中央区銀座3-14-1(銀座三丁目ビル6F) 03(5148)5600
東映デジタルラボ(株)　〒178-8666 東京都練馬区東大泉 2-34-5
TEL:03-3867-5009(代表) FAX:03-3867-5147

New
EXA 赤坂 MA STUDIO
リニューアルオープン！
4K ノンリニア編集室と連携！
Avid S6、Pro tools V.12 最新システムで 4K まで対応します。
エクサインターナショナルの MA スタジオは、企業 VP や CM、ミュージックビデオ等はもちろん、映画のコメンタリー等の掛け合い収録にも対応。オンライン編集室と同等の高画質な 4K 映像をプレビューしながら MA 作業とクライアントチェックが行えます。
株式会社 エクサインターナショナル　〒107-0052　東京都港区赤坂 2丁目16番 9号
TEL : 03-5575-3911　FAX : 03-5575-3910　http://www.exa-int.co.jp/

フジテレビ系列の技術フェア
岡山放送が金賞
CMオンライン対策システム

フジテレビ系列各社の技術部門による、第25回FNSテクニカルフェア「あんたが大賞」において、岡山放送の「CMオンライン対策はこれでバッチリ！自社開発アプリ2本を使った過渡期運用システム」が金賞を受賞した。

「あんたが大賞」は、日常業務の中から生まれた身近なアイデアやちょっとした工夫から、独自の技術開発や研究までを対象とする系列の技術イベント。今年の応募数は系列20社から33件。

今回の岡山放送のシステムは、10月2日から在京キー局を中心にスタートした、専用線を使ってCMデータを送受信する「CMオンライン運用」の過渡期対応を低コストで早期実現するものだ。

CMオンライン運用を本格導入するにはCM送出システム（CMバンク）の設備更新が必要だが、同システムは高額。そのため各テレビ局は、過渡期対応として、現在使用しているCMバンクを改修することで対応することになったが、それでも一定のコスト負担がある。

岡山放送が自社開発したシステム」は、「CMオンライン管理アプリ」と「CMオンラインファイル再生機用アプリ」で構成。営放端末に導入された「管理アプリ」でCM管理担当者がCM素材の到着処理をし、ファイル再生機に導入された「再生機アプリ」でCM収録担当者が素材をCMバンクに収録する仕組みだ。

従来の記録メディアを使ったCM送出の業務フローをあまり変更しないように設計され、担当者の業務負担が増えない配慮がなされている。

なお岡山放送は、試験期間を経て18年3月ごろに同システムの運用を開始する予定。

DXアンテナ
V―Low利用した緊急情報発信提案
Vアラート鍵開錠ボックスも

DXアンテナは、4K・8K放送受信システム、防災・福祉情報配信システム「DXマルチキャスト」とV―LOWマルチメディア放送を利用した防災ソリューション、同軸線モデムによる簡単なインターネット環境構築、エレコムグループとしてのワンストップソリューションなどを各コーナーとして設け、ツアー形式によるデモを連日繰り広げた。



DXアンテナブース


Vアラート受信による解錠の実演

放送受信システムは、アンテナからテレビ端子まで、2018年高度BS放送受信に対応する「2K・4K・8Kマルチシリーズ」を展示。

防災ソリューションは、防災行政無線の緊急情報発信をV―Lowマルチメディア放送を利用して防災情報（Vアラート）を無線で屋外拡声装置や戸別受信機に配信。放送波のため、大規模災害時に有線で起こり得る通信遮断や、通信による輻輳を回避できるのが特徴だ。

さらにポイントになるのが、避難所などの鍵が入った箱を、Vアラート受信で解錠できる「鍵開錠ボックス」。これにより、従来、自治会長などしかできなかった避難所の開錠を、一番先に到達した人で対応可能にする。DXの特許出願中の技術となる。

さらに、放送波を使い、平常時にはサイネージとして運用できるほか、車輌向け配信にも応用可能なことを示した。カーナビ連動によるカーシェアリングや駐車場などの各種情報配信、駐車場サイネージなどに展開できる。

CEATEC JAPAN 2017

5GでVR活用提案
自由視点リアルタイム制作
KDDI

KDDIは、5Gネットワーク上を想定したVRの活用を提案した。

KDDI総合研究所が開発した「自由視点VRリアルタイム制作システム」を活用。これは、撮影している映像をリアルタイムでカメラが存在しないアングルも含む任意の視点からの視聴を可能にした技術だ。複数のカメラから抽出された選手などの人物領域を3DCGモデルとして合成することによって実現した。

従来、10秒のシーンを作るのに20分を要したが、今回の新技術はほぼリアルタイムで実行。これは、従来の3DCGを構成する点群やポリゴンを介さず、平面の集合体としてモデルを表現する新しい方式を採用したことで、制作処理の大幅な高速化（同研究所の現行技術比60倍）を図ったもの。

同コーナーでは、フリークライミングの様子を、カメラ16台のHD出力でリアルタイム合成し、あたかも岩場を登頂するかのようなシーンを多視点映像で再生した。

また同ブースでは、ネットワークを介して、VR内でバーチャルアテンダントが不動産物件を案内するコンテンツも展示。シリコンスタジオ製リアルタイムレンダリングエンジン「Mizuchi」が活用されている。

KDDIではほかに、タブレット端末上で自由に音場をズームできる合成技術や、NHKと実際に実験をした5G高速・大容量を生かした移動しながらの8K映像伝送などをデモした。


自由視点VRライブ


MAZDAスタジアムのバーチャルツアーをデモ

広テレもVR

広島テレビ放送が昨年に続き出展した「超高精細バーチャルツアー」が8K対応に進化。8Kに適した再生エンジンがまだないため、4K表示でのデモだったが、スムーズなバーチャル空間移動を示した。

ローカル局でVRへの取り組み拡大

〈1面から続く〉

TNCの「VR九州プロジェクト」は、九州を切り口にしたVR映像を蓄積・提供するスマートフォン向け専用アプリ「VR kyushu」を運営するものだ。

自治体などにVR映像制作を企画・提案し、そこで採用され、制作した映像を配信するとともに、九州に特化したVR映像を順次蓄積していく計画。将来はVR映像のプラットフォームにすることを目指している。

TNC
「VR九州」運営
九州に特化した映像蓄積

プラットフォーム化目指す

「VR kyushu」というイメージに相応しいハイエンドの映像を目指している。

社内に、360度の映像を撮影できるカメラはもともとより、ステッチ・の制作工程を習得。現在は、すべて自前で制作・編集・合成ソフトウエアといった一連の制作環境を構築。カメラは「Go Pro OMNI」を導入・使用していたが、最近、8K VRカメラ「Insta360 Pro」を採用した。

VR映像制作に取り組んだ当初は、KTS同様、専門のプロダクションと契約して、担当者が一連の制作工程を習得。現在は、すべて自前で制作・編集・合成ソフトウエアといった一連の制作環境を構築。カメラは「Go Pro OMNI」を導入・使用していたが、最近、8K VRカメラ「Insta360 Pro」を採用した。

VR映像制作について公開されている。

TNCは、放送局がつくコンテンツが計10本ほど公開されている。

VR映像制作について近く入門講座を開催する。

TNCは、東京五輪に向けてVR制作の需要は大きく伸びると予測。今後、自治体や企業にVR映像制作を企画・立案する一方、パートナーを拡大することで公開コンテンツを増やしていき、プラットフォーム化を実現したい考えだ。

ビジネス化に向け、映像内でのCGによる広告など、ノウハウの蓄積を進めていく。



株式会社 テックス　公式ページ！
http://www.facebook.com/rental.tecs



XC10

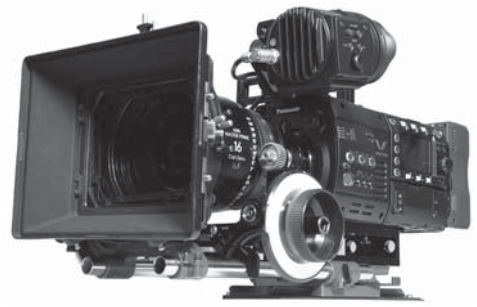


PMW-F55



BMPC

4K ON RENTAL



VARICAM35



PXW-FS7



C300 MarkII



α 7R II



URSA Mini



EPIC

Visual Communication Office
Tecs
株式会社 テックス

撮ると生きる
www.tec-s.jp

■ 周辺機器まで撮影に関するあらゆるレンタルならおまかせください

株式会社テックス　〒160-0004　東京都新宿区四谷 4-21-27　TEL.03-3226-6594　FAX.03-3351-9470

CEATEC JAPANで最新の映像表示機器

シャープが8K対応テレビ

「CEATEC JAPAN 2017」（10月3－6日、幕張メッセ）では、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）に関する展示が話題を集めたが、ここでは、従来からこの展示会の花形であったディスプレーやテレビ関連の出展を中心に紹介する。



シャープはプロ・業務用8K対応の27型HDRモニターを参考展示した



シャープは8Kの医療応用も提案

ソシオネクスト

8Kサイネージ装置を訴求

エプソン

プロジェクターで空間演出

◆8Kテレビを披露

ディスプレー関連の展示で見応えがあったのはシャープのブースだった。シャープが今年12月1日に国内市場で発売予定の8K対応液晶テレビ「LC－70X500」が、「CEATEC AWARD 2017 部門賞」のホーム&ライフスタイル・イノベーション部門でグランプリを獲得した。

シャープの8K対応液晶テレビは、フルハイビジョンの16倍の解像度を持つ8K高精細液晶パネルを民生用液晶テレビに採用した「AQUOS」シリーズの最上位モデル。これまでの4K解像度では表現できなかった究極のリアリズムを追求し、きめ細かな映像を再現できる8K液晶パネルの高精細表示に加え、同社が長年「AQUOS」で培ってきた広色域・高輝度技術などにより、これまでにない映像体験が可能となった。

この8K対応の液晶テレビは、この展示会が一般には初公開となったため、同社ブースは終日にぎわいを見せていた。

シャープでは「他社に先行して8K放送の市場で、8Kの活用を広げる契機を創出したことが評価され、今回の受賞となった」としている。

また、放送用マスターモニターや医療、セキュリティーなどの用途を目的とした、8K対応の27型HDRモニターを参考展示した。シャープの説明員は「発売に関しては未定だが、来年をめどに商品化したい。来年から8K放送も始まる要に期待をしたい」と話していた。

ディスプレーギャラリーでは、シャープが誇るディスプレー技術を活用した商品を体験することができた。世界最高解像度のHMD・IGZO技術で実現した超高精細表示（1008ppi）による高臨場感映像や、大容量情報を表示するスーパーワイドディスプレー、円形ディスプレーを搭載したDriving Assistantなど、コネクテッドカー時代に向けた統合インパネソリューションを提案。さらにショーウィンドーなど、省スペース設置でのイメージ表示が可能な短焦点プロジェクターを用いた、透明ガラスへの投写によるサイネージソリューションも展示した。



ソシオネクストブースでは、「8K映像再生技術/22.2ch音響技術」などを展示。写真は有機EL8Kマルチビジョン（LG製）



エプソンブースでは、さまざまな手法でプロジェクターを使った空間演出が目立った

◆8K映像再生技術

「ソシオネクストが提供する繋がるセンシングと映像の世界」をテーマにしたソシオネクストブースでは、同社が持つ「8K映像再生技術／22・2ch音響技術」などを披露。同社オリジナルの1チップ8K HEVCデコードLSIを用いた、デジタルサイネージ向けMediaPlayerなどをデモした。

さらに、前方の2chスピーカーだけで最先端の立体音響が楽しめる3D音響技術も紹介した。

同社は複雑な処理が可能なLSI（大規模集積回路）の開発企業であり、NHKや通信キャリア・テレビメーカーなどと協力して8K映像システムを開発している。その一端をこの展示会では具現化してみせた。LGエレクトロニクス製の4K対応有機ELディスプレーを4面組み合わせた8K対応マルチディスプレーを使い、同社が開発した8K映像対応プレーヤーなどをデモした。

ブースでは「国内外の多くの会社が当社の半導体技術を活用して、8K映像システムを開発している。この展示会では、将来に向けて8Kサイネージなどを紹介した」と説明していた。

◆映像で空間演出

エプソンブースでは、さまざまな手法でプロジェクターを使った空間演出が目立った。

メインの「プレゼン演出ブース」では、同社のプロジェクターとゼロオフセットレンズを使ったプロジェクションマッピングと、大型フィルムなどを組み合わせた大型映像演出によるプレゼンテーションを展開した。

フォーラムエイトがVR実演

自転車シミュレーターなど各種ソリューションを展示

フォーラムエイトは「CEATEC JAPAN 2017」において、VR（バーチャルリアリティー）関連の各種ソリューションを展示した。ブースでは同社のVRソフトウエア「UC－win／Road HMD」の体験プレゼンテーションを随時実施し、毎回多くの人が参加していた。

UC－win／Roadは、各種プロジェクトの3次元大規模空間を簡単なPC操作で作成し、多様なリアルタイム・シミュレーションが可能。柔軟な開発環境、高度なシステム開発に適用できる。17年2月にVer.12をリリース。ネイティブ64ビット対応で大規模空間のシミュレーションが可能となった。この最新ソフトを利用し各種のVRシステムを紹介した。

エアドライビングは、赤外線深度センサーからの情報をUC－win／Roadへ取り込むことが可能なオプションプラグイン。各種センサーからの情報により、UC－win／Road上での車両運転が可能になる。

今回の展示会では自転車シミュレーターが人気を集めた。実際にサイクリングをしているような感覚を、VRシステムで味わうことができた。


フォーラムエイトがブースで実施したVRソフトウエア「UC-win/Road HMD」の体験プレゼンテーション



人気を集めた自転車シミュレーター

スタジオ施工はお任せください
～プロが創造する匠の空間～

●ポストプロダクション（MA、EDIT）
●各種ミュージックスタジオ施工
クレイジーＴＶ様
映像スタジオ施工　MA室 ブース 各種 編集室 注文制作家具
Takahashi Construction Co., Ltd.
SOUND PROOF
～映像・音響専門
SINCE 1979～
一級建築士事務所
高橋建設株式会社
本社 〒216－0032 神奈川県川崎市宮前区神木1－7－8
TEL044-853-0547 FAX044-852-1588
（社）日本ポストプロダクション協会会員／（社）日本音楽スタジオ協会会員
（社）日本音響学会会員
デジタル映像環境に対応、直営システムに依る徹底したコストダウン
映像・音響・防音
プランニング・施工
http://www.takahashi-kensetsu.co.jp　info@takahashi-kensetsu.co.jp

データで見るメディア
視聴率と秋編成（上）

2017年度上半期（17年4月3日―10月1日）の視聴率競争は、日本テレビが全日（午前6時―午前零時）8・0%・G帯（午後7―10時）12・2%・P帯（午後7―11時）11・8%で三冠王となった。2位NHKは前年同期に急上昇したが、今期は一昨年の水準に戻った。全日だけ好調でテレビ朝日はTBSに並ばれ、フジテレビは下げ止まりの兆候が見える。こうしたなか秋編成がスタートした。上期を振り返りつつ下期を展望する。1回目は日テレを中心に考える。

（次世代メディア研究所・鈴木祐司）

日テレ三冠王
独走の背景に小幅な改編

★7期、15クール連続

17年度上半期の視聴率競争は表の通りの結果となり、日テレが三冠王に就いた。民放キー局の中では14年度上半期から7期連続、クール別では15クール連続、月間では46カ月連続トップを続けている。

ただし週間で見ると、状況に少し変化が出てきた。9月第2週（9月11―17日）G帯は、日テレが10・5%に対して、TBSは10・6%と上回った。25週ぶりに三冠王が途絶えた瞬間だった。

この週は日テレにグラチャンバレー男子の中継5試合があり、低視聴率だったのが響いた。いわば自滅した格好だが、各局にもチャンスがあることを示したとも言える。

★10年以上12%台

日テレの強さは、過去10年以上、G帯視聴率がほぼ12%台と安定している点にある。この間にHUT（総世帯視聴率）は1割ほど減っているにもかかわらずの強さだ。

独走の背景には、何年も小幅な改編しかしない点がある。今春の改編でも、土曜午後9時からの『土曜ドラマ』を、午後10時からの『嵐にしやがれ』と入れ替えた程度だった。

ポイントは、「タイムテーブルの要衝である夜9時台の強化」「曜日ごとの視聴フローの改善」「ドラマ3枠のコンセプト再設定」の3点で、つまりは土曜の夜だけ変えたわけだ。

今年3月までは、午後7時『天才！志村どうぶつ園』、同8時『世界一受けたい授業』、同9時『土曜ドラマ』、同10時『嵐にしやがれ』の並びだった。このうち同9時と同10時を入れ替え、バラエティー3本を並べ視聴率を安定させようとしたのである。

これでG帯では、『金曜ロードSHOW』以外の全番組がバラエティーとなった。「年間を通じて安定した数字を確保するならバラエティーが確実」という考え方に徹した編成だ。「トップの座を行けるところまで維持し続ける」という強い意思が表れた編成だった。

★磐石のバラエティー

全体の数字は前述した通り、9月2週の三冠脱落というハプニングはあったが、「バラエティー主体の編成は盤石」を再認識させる結果だった。

注目の土曜は、午後10時台に移った『土曜ドラマ』春クールが平均9・6%。10時台だった『嵐にしやがれ』と比べ遜色がない。また前年同期は7・9%だったので、大幅に改善したと言えよう。また夏クールも前年同期比で2ポイントほど上昇している。

ちなみに『土曜ドラマ』は、午後9時から同10時に下がったことで、「テ ィーンとその親世代の随伴視聴狙い」から、「F1―2（20―49歳女性）狙い」へとターゲットが変更されている。これにより、作風も変わり安定感が格段に増している。視聴率改善の大きな要因だ。

さらに『嵐にしやがれ』が午後9時に繰り上がったため、同10時台だった昨年より視聴率が2ポイントほど上昇した。20―30代が上昇しているが、特に10代で倍増しているのが大きい。改編は成功だったと言える。

さらに土曜夜のテコ入れは、全体への波及効果をもたらしたようだ。今期を前年同期と比較すると、G帯は0・6ポイント上昇、P帯も0・3ポイント上がっている。明らかに土曜2時間の上昇分以上に全体が改善している。

土曜夜の〝視聴フロー改善〟もある。また『土曜ドラマ』が〝恋愛ドラマ色〟を強めたことで、水曜の「女性向け」と日曜の「大人の男性向け」と、3枠のドラマのコンセプトが明確になったこともある。ドラマ全体に勢いが出ているようだ。

さらに「タイムテーブルの要衝である夜9時台の強化」が図られたことで、視聴者の選局習慣が進んだ点もある。「日テレ＝バラエティー＝外れのない〝面白さ〟」という方程式が、視聴者の中に定着している。

★異例の秋改編

こうした好調ぶりを受けて、日テレの秋改編は異例となった。ドラマ以外は「ほぼ無改編」というのである。ドラマはクールごとに変わるので当然だ。となるとドラマのない同局G帯は本当に「無改編」となった。

P帯はドラマの変更のみ。そして全日では、『スッキリ』と『ヒルナンデス』のキャスター交替がある程度。編成部長は「視聴習慣を確立するため、10月はあえて無改編。実はチャレンジングで、GP帯をいじらないことにした」と説明している。

同局は10年以上前から、「視聴者の中に体内タイムテーブルが自然と生まれることが望ましい」と考えてきた。そのためには安易に番組を変えず、番組内のコーナーをテコ入れすることで底上げを図ってきた。

今回初めて〝無改編〟が実現したということは、同局の編成表が現状でほぼ完成したことを示す情勢と言える。独走はどこまで続くのか注目したい。

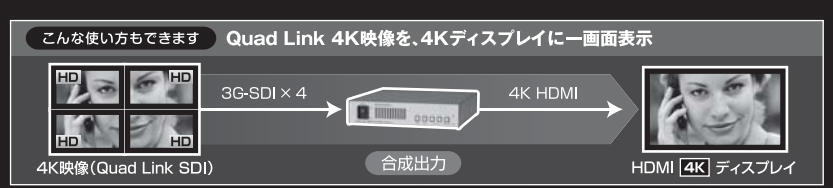
2017年度上半期の視聴率

（各局上から全日・G帯・P帯、○内の数字は6局中の順位、カッコ内は前年同期比）

日テレ	8.0%①(−0.2)
	12.2%①(+0.6)
	11.8%①(+0.3)
NHK	6.3%③(−1.0)
	10.2%②(−1.6)
	9.0%②(−1.4)
TBS	6.1%④(+0.1)
	9.6%③(−0.2)
	9.5%③(−0.1)
テレ朝	7.1%②(+1.1)
	9.1%④(−0.7)
	9.4%④(−0.2)
フジ	5.7%⑤(±0.0)
	7.7%⑤(−0.1)
	7.6%⑤(−0.2)
テレ東	2.8%⑥(±0.0)
	6.6%⑥(+0.2)
	6.2%⑥(±0.0)

（ビデオリサーチ調べ　関東地区900世帯）

設計から製造までメイド・イン・Japanの信頼品質
IMAGENICS
4つのフルHD映像を、
4Kディスプレイに4分割リアル表示！


4K HD/3G-SDI to HDMI UHDビューワ
SEV-U41 税抜価格 280,000円
■マルチビューモードで、4K HDMIによる4画面合成出力が可能
■セレクターモードで、画面切替が可能
■自動切替モードで、シーケンシャル動作やプライオリティ動作が可能


イメージニクス株式会社
東京営業所 TEL.03-3464-1401 / 大阪営業所 TEL.06-6354-9599 / 福岡営業所 TEL.092-483-4011
http://www.imagenics.co.jp/

The new documentary-style camera


ALEXAから継承した高画質、最高200fps収録
ワンマンオペレートに特化した操作性 完璧なショルダバランス
3D LUTによるカメラ内蔵クレーディング
ARRIならではの信頼性の高い筐体設計
Pick Up > Shoot
AMIRA
ARRI AMIRA. TRULY CINEMATIC.
For more information please contact:
www.nacinc.jp
nac IMAGE TECHNOLOGY
株式会社 ナック イメージテクノロジー
映像制作：東京都港区北青山2-11-3：03-3796-7901 seisaku@camnac.co.jp
レンタル：東京都港区赤坂4-13-13：03-3583-7902 nacinc.rental
大阪／名古屋／九州
ARRI

IBC2017報告 ④

DVBがTVに新機能

適応型のマルチキャストと標的型広告挿入を規格化へ

欧州発の放送方式DVB（Digital Video Broadcasting）を推進する「DVBプロジェクト」は、ネット配信時代の課題に対応する新たな技術標準を策定している。9月にオランダ・アムステルダムで開催された電子メディア制作・配信技術の展示会「IBC2017」において、標的型広告挿入、適応型マルチキャスト、そして家庭内IP配信について状況を説明し一部デモを実施した。電波、ネットの両方面を網羅する規格を準備するとともに、次のWRC（世界無線通信会議）に備えている。（杉沼浩司）



DVBの活動を説明する専務理事のジーバート博士

★世界規格を実現

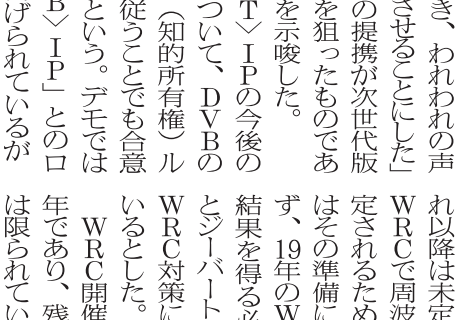
DVB方式は「欧州のデジタルテレビ方式」と解されることも多いが、「欧州」という地域性に拘泥しては本質を見誤る。確かに、規格化を推進する中核メンバーは欧州にあるが、技術は世界で採用されている。デジタルテレビ方式としては、世界で最も採用国数が多い。そして、要素技術は多くの規格の中で使用されている。日本でも、DVBの名前が見えない形で、放送のいろいろな場所の技術に用いられている。

DVBは、地上波の電波形式については新方式の開発に関心を示していない。現行のDVB－T2で4Kまで十分に対応できるとしている。

DVBプロジェクトの会長を務めるピーター・マキャボック氏（EBU）は、9月15日の記者会見で「4Kがメインストリームになったが、放送事業者がより低コストに扱える必要がある」と周辺技術の整備を訴えた。また「HDRの効果を認めつつも、制作、配信での難点が残るとの見方を示した。

ネット連携型データ放送方式（日本のハイブリッドキャストに相当）については、「（独IRTが開発した）HbbTVがコアだ。HbbTVとの間でテストとプロモーションの連携を強める」とした。HbbTVは、HbbTVアソシエーションが普及活動をしているが、DVBと同じくEBU内に本部を持つ。

今回詳説されたのは、標的型広告の挿入方式と適応型マルチキャストの両規格の作業状況であった。いずれも、シリー・フッチー氏（ハーモニック）が報告した。



検討中の適応型マルチキャストは、あらゆる種類のIPネットワークで利用できる

標的型広告挿入は、無料放送、有料放送、OTT（ハイフレームレート）化は、少ない投資で大きな効果を得られる。HD化の際にHDR／HFRを採用するという道がある」と、まずはHD化が進むとの見方を示した。

そして「今年は、DVBのブースで、毎秒40ギガビットのDVB－T2のもと、4K／50p（HDR）、これだけ流せるということと、HDRの画質を見せることを狙っている」とデモの目的を語った。

DVBは、4K方式をUHD－1とし、さらに2段階に分けていた。現在進展しているのは「UHD－1フェーズ2」である。これに対応した受像機は、HFR、HDR、次世代オーディオなどを装備する。HDRでは、HLGとPQ－10、次世代オーディオではドルビーAC－4とMPEG－Hへの対応が必要となる。

「複数方式への対応は、装置価格の高騰を招くのではないか」との質問に、ジーバート博士は「使用国の規格でいずれかの方式の利用が決まれば、受像機は両対応でなくても、UHD－1フェーズ2対応と名乗れる」と、現実的な対応をとっていることを強調した。



DVBプロジェクトは、T2による3番組送信のほか、IPによる室内配信、広告挿入もデモした

★室内配信も規格へ

受信後、テレビからIPで室内のスマートフォンやタブレットなどにコンテンツを配信するデモも、昨年に引き続き実施した。この方式は「SAT〉IP」（以下、SAT〉IP）と表記）と呼ばれている。このたびDVBが同方式のプロモーション団体であるSAT〉IPアライアンスにリエゾンを送る事が決定された。リエゾン派遣について、ジーバート博士は「この形式をとることで、すべてのDVBメンバーがSAT〉IPに関与できることになる」とメリットを示した。

「DVBで室内用IP配信方式を策定する意図はないのか」との質問に対しては、「既にソリューションが存在するところに、再発明する必要はない。ただ、DVBメンバーが必要と思う機能を反映させるためにリエゾンを置き、われわれの声を反映させることにした」と、この提携が次世代版の開発を狙ったものであることを示唆した。

SAT〉IPの今後の開発について、DVBのIPR（知的所有権）ルールに従うことでも合意されたという。デモでは「DVB〉IP」とのロゴが掲げられているが「このロゴは、IBC用に作った仮のもので、決定されたわけではない」（ジーバート博士）とのことである。

★FMはどうなる

目立たないが重要な規格もDVBでは策定されている。「この1年で、第2世代緊急警報システム（EWS）の規格が決まった。また、UHD用のサブタイトルも規格化を終えた。XMLでサブタイトル情報を記述するので柔軟性が高いことも、前世代のサブタイトル規格と大きな違いだ」としている。

このほか、前出の標的型広告挿入方式や適応型マルチキャストの規格化に加えて「全周映像も慎重に検討している」（ジーバート博士）という。

地上波の将来について「欧州の一部地域でFM放送の停止が決まっている。ノルウェーは実施済みで、スイスも2022年までに停波する。一方、空き地の用途は明確でない。地上波テレビは、30年までは700MHz以下の帯域が使えるが、それ以降は未定だ。23年のWRCで周波数利用が決定されるため、われわれはその準備に忙しい。まず、19年のWRCでよい結果を得る必要がある」とジーバート博士は述べ、WRC対策に力を注いでいるとした。

WRC開催まであと2年であり、残された時間は限られている。



ポストプロダクションにおける従来のワークフローを継承
そして更なる進化へ
D.O.T キャラクタジェネレータ
オープンプライス（ディスプレー付ターンキーシステム）
■ PGM(OA)とPVW(Next)ウィンドウの同時表示により、収録中に次のテロップを作成することができます。
■ Dekoと同一のショートカットと、ペイントソフトスタイルの操作性
■ リアルタイム出力 (IMEで文字変換中もリアルタイムビデオ出力)
■ αチャンネル付き画像ファイルを、登録せずに使用可能
■ 縦ロール、横ロールのファイル(長手ファイル)をPNG等の汎用画像ファイルで書き出し可能
■ エフェクトやアニメーションを連番ファイル、またはMOVファイルで書き出し可能
■ Deko連携オプション（Dekoファイルを即座に映像出力）
［販売］ TOTSU INTERNATIONAL 株式会社 東通インターナショナル 東京都文京区小石川1-21-14 TEL 03-5805-5271 www.totsu-int.co.jp

愛媛県宇和島市が実証実験
情報弱者向けの情報伝達
イッツコム「テレビ・プッシュ」を採用

愛媛県宇和島市（岡原文彰市長）は、総務省と協力し実施する「戸別受信機等の情報伝達手段に係る実証事業」に、イッツ・コミュニケーションズ（東京都世田谷区）が開発し提供している情報伝達システム「テレビ・プッシュ」を「聴覚障がい者等への確実な情報伝達」に活用するシステムとして採用した。これに伴い、11―12月の2カ月間にわたり同システムの実証実験をする。期間内には防災訓練の実施なども予定している。

宇和島市では、コミュニティFMと連携した屋外拡声子局、広範囲屋外拡声器などの整備や防災ラジオの配布により、「音声」の情報伝達手段を整備してきた。しかし聴覚の衰えや障害など、情報弱者向けの情報伝達手段の整備は十分でなく、当該対象者に向けた新たな整備が必要とされてきたという（住民の高齢化率は36％超）。

また、宇和島市には2000カ所以上の土砂災害危険個所や、警戒区域／特別警戒区域が点在しているが、土砂災害発生危険時に該当エリア住民への情報伝達の徹底に課題があった。

実証実験では、テレビ・プッシュの特徴である「テレビの電源を自動でオンにし、テレビ画面で情報を告知する」機能を活用。情報弱者とされる聴覚障害者に対し、緊急情報などの確実な情報伝達の効果検証をする。

また、情報伝達の高度化、多様化を推進する上で、防災情報配信端末が平常時も活用される取り組みが重要とし、日常的に活用される情報を配信することで、テレビ・プッシュの接触頻度が向上するか有効性を検証する。

具体的には、宇和島市在住の聴覚障害者、要配慮者利用施設、行政施設など200カ所にテレビ・プッシュを整備。Jアラートなどの緊急情報や災害対策本部からの避難情報、緊急地震速報などの情報を、テレビの電源を自動でオンにして配信する。

また、土砂災害警戒区域および特別警戒区域に設置するIP―STB端末をそれぞれグループ化し、該当地区の住民に対し土砂災害発生の危険について迅速な告知を実施。テレビ・プッシュに双方向機能を搭載して、配信した情報が確認されたか否かのデータ収集、分析をする。

さらに緊急時の防災情報に限らず、宇和島市からの各種告知（イベント情報などを含む）、地域の防犯や天気予報、ごみ収集情報や熱中症、PM2・5情報などの平常時に日常的に活用される情報を配信する。

防災製品大賞©2017
イッツコムが金賞
新製品・開発部門で

イッツ・コミュニケーションズ（イッツコム）は、防災安全協会が新たに制定した、日本で初めてとなる「防災製品大賞©2017」の新製品・開発部門において、同社が開発した防災情報と生活情報の配信サービス「テレビ・プッシュ」が金賞を受賞したと発表した。

「防災製品大賞©2017」は、全国73社から120エントリーされた品目の防災製品の中から、防災製品部門、災害食・非常食部門、復興支援部門、新製品・開発部門の各部門の金・銀・銅3賞および特別賞を決定するもの。

テレビ・プッシュは、Jアラートや地元自治体の緊急情報（避難勧告など）が発令された場合、専用端末に内蔵された音声スピーカーから声による情報告知とともに、自宅のテレビを自動で起動させ、テレビ画面で文字と画像で情報を告知する機能を搭載している。

ジェイコムショップ開設
J:COM熊本
記念イベントを開く

ジェイコム九州熊本局（J：COM熊本／熊本市中央区）は、熊本エリアにおける顧客サービス向上を図るため、10月27日に熊本では初の出店となる「ジェイコムショップ ゆめタウンはません店」をオープンする。

熊本市内で最大級のショッピングセンター内に設けるジェイコムショップでは、「J：COM MOBILE」などJ：COMの最新サービスを実際に体感できる。また、テレビやインターネットをはじめとした各種サービスの申し込みや利用プラン見直し、リモコンの操作方法などの相談を受け付ける。さらに、タブレット教室やさまざまなイベント開催を通じて、J：COMのサービスを分かりやすく紹介する。

10月27―29日には、オープン記念のイベントを開催。29日は熊本で活躍中のプロサッカークラブ「ロアッソ熊本」の選手をゲストに迎え、公開収録をするほか、28、29日にはケーブルインターネットZAQのキャラクター「ざっくぅ」との撮影会や「BINGO大会」を実施。さらに、プレゼント贈呈などの企画を用意している。

新番組『デイリーニュース』生放送
J：COM港・新宿

ジェイコム港新宿（J：COM港・新宿／東京都港区）は、2日午後5時50分から、「J：COMチャンネル港新宿」（地デジ11ch）で、新番組『デイリーニュース』（月―金／20分）の生放送を開始した。

番組は、港区と新宿区に特化した地域のニュースを伝える。同日午後8時30分と同11時30分にも再放送する。地域情報アプリ「ど・ろーかる」でも同時ライブ配信する。

8Kコンテンツによる
VR配信視聴システム
NTTドコモが開発

NTTドコモ（以下、ドコモ）は、世界初の「8K／60フレーム／秒VR映像配信・視聴システム」を開発した。この技術は、パノラマ映像コンテンツとして、高品質8Kコンテンツの配信と視聴を可能にするもの。

同システムは、映像配信をするサーバーと、ストリーミングによるコンテンツを再生するプレーヤー、高品質パノラマ映像を視聴するための高品質ヘッドマウントディスプレー（HMD）で構成する。

通常、映像の再生負荷はコンテンツの解像度とフレームレート（1秒当たりの映像フレーム数）の積に比例し、8K／60p／秒コンテンツの再生は非常に高負荷となるため、ハイエンドなPCを用いても再生が困難だった。

そこでドコモでは、NTTテクノクロスの「パノラマ超エンジン」を用い、2K解像度の映像を2枚同時に再生するプレーヤーを開発。これにより再生負荷が大幅に下がり、市販のPCでの8K映像の再生が可能となった。

同システムは、「CEATEC Japan 2017」のNTTグループブースで展示デモした。

YouTubeのモバイル
アプリ広告の測定を開始
ニールセン デジタル

ニールセン デジタルは、広告視聴率（Nielsen Digital Ad Ratings）でYouTubeのモバイルアプリ広告の測定を開始した。

従来、ニールセンはPCとモバイルウェブブラウザーでのYouTube広告のリーチ計測を提供していた。今回、モバイルアプリ広告まで測定範囲を拡大したことで、広告主にPCとモバイル端末を横断して、デバイス間でのユーザーの重複を排除したYouTube広告の総合的なクロスデバイス測定を提供する。

YouTubeのモバイルアプリの測定は、今年6月に米国で開始。日本および同じくサービスを開始したカナダは、米国に次ぐ測定市場となった。

計測範囲の拡大により、ニールセン デジタル広告視聴率の顧客は、YouTube広告全体のリーチ、フリークエンシー、グロスレイティングポイント（GRP）など、視聴者の年齢や性別にひも付いたユーザー情報を利用できる。

ニールセン デジタル広告視聴率のYouTube広告測定は、他のすべてのモバイルサイトやアプリと一貫して同じ方法論を用いて計測するため、広告主と媒体社の双方が、メディアプランニングと実施において媒体間で比較可能で、重複を排除した人ベースの測定を活用することが可能だ。

デジタルコンテンツ白書2017
激動の真っただ中にあるコンテンツビジネスの"いま"を知る必携の書

本白書では、国内コンテンツ産業の市場規模の詳細データを掲載するとともに、映画、音楽、ゲーム、ソーシャルメディアなどの分野別動向や海外の状況を、国内外専門家の執筆により明らかにしています。また今回は、「仮想（VR/MR/AR）コンテンツがやってくる」を特集として取り上げるなど、コンテンツビジネスの“いま” を知る必携の書となっています。

主な内容

第1章　特集「仮想（VR／MR／AR）コンテンツがやってくる」
第2章　日本のコンテンツ産業の市場動向
日本のコンテンツ産業の市場規模／コンテンツをめぐる法的環境の最新動向
第3章　日本のコンテンツ産業政策
第4章　コンテンツの分野別動向
マンガ／アニメーション／映画／音楽／ゲーム／オンラインゲーム／ライブエンターテインメント
第5章　メディアの分野別動向
ソーシャルメディア／モバイルサービス／放送／新聞／出版
第6章　海外動向
アメリカ／カナダ／サウジアラビア／中国／韓国／マレーシア
資料編
コンテンツ産業統計資料／ヒットコンテンツ2016 レビュー／2010 年～2015 年のヒットコンテンツ



●仕様：A4変型272頁（本文2色）　●定価：12,000円（税別、送料別途）　●発行日：2017年9月1日　●編集・発行：一般財団法人デジタルコンテンツ協会　●販売：映像新聞社

映像新聞ウェブサイトからご購入いただけます　http://www.eizoshimbun.com/online_subscription/dcwp.htm

●ご購入に関してのお問い合わせ●　株式会社 映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

池上通信機

SAMと放送機器販売で提携

海外市場での4K展開を強化

池上通信機は、海外放送市場を中心とした4K番組ソリューションを強化する戦略の一環として、英国のスネル・アドバンスト・メディア（SAM）と、IPおよび12G－SDI関連機器の販売で提携。4K放送システムにおける顧客の要望に応えていく。

SAMはスイッチャーをはじめとした放送機器や編集装置、IP関連機器などを開発販売する。9月にオランダで開催された放送機器展「IBC2017」では、同社とSAMのブース間で、IP伝送規格についてのシステム構築を検討するため、Video over IPへの取り組みについてもSAMとの連携で強化する。

販売提携にあたっては、池上の4K／HDカメラ「UHK－430」とSAM製品の互換性を検証している。IPブリッジでこの機能を拡張することにより、報道やライブ番組の制作でリモートカメラでの制御ができるという。

キヤノンは、スーパー35ミリ相当センサーを搭載した4Kカメラに対応する映像制作用ズームレンズの開発を評価され、第69回テクノロジー&エンジニアリングエミー賞を受賞した。

今回評価されたレンズには、50－1000ミリという長い焦点距離を実現した望遠レンズ「CN20×50 IAS H／E1」「CN20×50 IAS H／P1」が含まれる。4Kでのネイチャーやドキュメンタリー映像制作において幅広い映像表現を可能にしており、ナショナルジオグラフィック「Earth Live」などの番組制作現場で採用されている。遠隔地での野生動物の撮影でも簡単に持ち運べるよう小型・軽量化も実現。最適な配置を可能にする光学シミュレーション技術を駆使している。

機動性を確保しながら、4K光学性能と映像輝度のバランスを最適化。特に、広角側では高精度な設計で高い4K光学性能を実現した。

テクノロジー&エンジニアリングエミー賞は、10月25日に開催されるSMPTEの年次総会で授与される。

キヤノン
エミー賞技術賞を受賞
4Kズームレンズが評価


CN20×50 IAS

DJIが空撮用に開発
S35の6Kシネマカメラ
Inspire2に搭載

DJIは、プロ向けのタルシネマカメラ「Ze搭載して利用できる。空撮用スーパー35ミリデジンmuse X7」をll スーパー35ミリセンサー月下旬に発売する。業界初だという。プロ向けドローン「Inspire2」にと14ストップのダイナミックレンジにより、低照度条件下で細部まで表現する。被写界深度は浅くノイズも少ないため自由にカラーグレーディングできる。

撮影形式は6K Wineman RAWまたは5・2Kのプロレゾで最大30フレ／秒。3・9KのCinema DNG RAWおよび2・7Kのプロレゾは最大59・94フレ／秒で撮影できる。重量は449グンに合わせて設定できる。24、35、50ミリにはメカニカルシャッターを搭載した。

専用のDJI DLマウントは、単焦点レンズに最適化されフランジバックが短い。焦点距離16、24、35、50ミリのレンズを使用でき、いずれも開放F値は2・8。16ミリレンズはND4フィルターを内蔵し、さまざまなシーンに適している。


16ミリレンズをつけたZenmuse X7

イメージプロセッシングシステムもアップグレードし、多くの情報をとらえられるようフィルムカメラのように動作するEIモードを搭載した。ダイナミックレンジと異なるLogカーブで発生するノイズとのバランスを取る。

価格はカメラが34万9800円。16、24、35ミリレンズは16万8400円、50ミリは15万5400円。4つのレンズとのセットは54万8000円。

マンフロット
新機構のビデオ雲台を発表
無段階のカウンターバランス

マンフロットは25日、「ナイトロテックN8フルードビデオ雲台」を発売する。価格は7万5000円（税別）。三脚のセットやプレート、パンバーも用意している。


ナイトロテックN8フルードビデオ雲台


説明会の様子

同製品は業界で初という、窒素を封入した「ナイトロジェンピストン」を搭載。雲台上部の調整ノブを回すとピストンが昇降し、0－8キログラムの範囲で無段階にカウンターバランスを調整できる。

11日には製品発表会を開催。新井啓之社長は「性能や大きさ、価格、デザインとも雲台の常識を変える画期的な製品だ」とあいさつした。イタリア本社のマーケティングマネージャー、ジュゼッペ・パンチルトそれぞれのドラッグ調整ができ、底部はフラットベースとする。アクセサリーをつけやすいイージーリンク機構を備える。性能や耐久性を確認するための安全試験も多く実施している。

ディラウロ氏とビデオグラファーの岡英史氏によるプレゼンテーションも行われた。

同製品はカメラボディの小型化や4K、8Kなどの高解像度化、またアクセサリーが多用されるモジュール化に合わせて開発された。

一般的なカウンターバランスは、重量が固定あるいは無段階でも0キログラムは不可などの制約があるが、同製品は、自動車製造の技術を応用したピストンにより無段階を実現。パンチルトそれぞれのドラッグ調整ができ、底部はフラットベースとする。アクセサリーをつけやすいイージーリンク機構を備える。性能や耐久性を確認するための安全試験も多く実施している。

1台でミラーレスカメラから肩担ぎ型まで対応するほか、レンズを変更し重心が変わっても簡単に調整できるため、単独で、さまざまな状況に対応しながら機動的に撮影したいビデオグラファーに適している。

9月のIBC2017では、12キログラムまで対応する「N12」を発表している。

ジャパンマテリアル
4K HDMIケーブルを発売

ジャパンマテリアルは、18Gbps高速伝送対応の4KHDMIケーブルを発売した。5、7、10、15メートルの4製品。

アストロデザインのプロトコルアナライザー「VA－1842」やパナソニックのディスプレー「TH－40CX700」、ソニーのウルトラHDブルーレイ「UBP－X800」、ブライトサインのサイネージプレーヤー「BS／XT243」、アマゾン「Fire TV」などと動作確認がされている。

価格は5メートルが7000円、10メートルが1万5000円（すべて税抜）。



2つのレンタルはじまる。

PR POOL RENTAL プールレンタル

TR TRIAL RENTAL トライアルレンタル

弊社取商品のレンタルサービスで、
２つのレンタルプランから選べます。
詳細はこちら→http://support-raid-japan.com/raid-rental/

RAID
raid-japan.com
株式会社 RAID
info@raid-japan.co.jp
TEL:03-5765-2044

大型映像業界 特集

超高精細装置をそろえる

中国系LEDディスプレーメーカーが台頭

幅広い製品群で市場に対応

街頭大型ビジョンに代表される大型映像装置は、イベント演出やデジタルサイネージなどにおいても欠かせないものとなっている。また、2020年の東京五輪開催に向け、業界は特需を迎えている。その大型映像業界では、ここ数年中国系のLEDディスプレーメーカーの台頭が目立つ。そこで、大型映像業界の最新動向と大型映像ビジネスに取り組む各社の状況をレポートする。（川田宏之）

多様な分野にニーズが拡大

中国レイヤード社の日本法人であるレイヤードジャパンは10月、レンタル向けとして国内初の屋外用LEDディスプレー3・9ミリピッチブラックSMD採用の新型機種を市場投入した。

同社は超高精細のハイレゾタイプから競技場向けなどの屋外タイプまで、幅広いラインアップをそろえているのも特徴で、エルテックやテレビ朝日サービス、ライザウエストなど国内販売会社にも強力な布陣を整えており、日本市場でのさらなる拡販を目指している。

中国アブセン社日本法人のアブセンジャパンは2年前から東京・木場に専用のショールームを設置し日本市場での事業体制の強化を図っている。

ショットビジョン、光和、インターナショナルクリエイティブ、映像センターなど多くの映像機器のレンタル会社が同社製品を採用しており、レンタル会社での評価も高い。レイヤード同様に屋外型のシリーズに高精細な3・9ミリピッチの製品が加わった。

レイヤードジャパンの三浦衛社長、アブセンジャパンのト・ソウ社長ともに「映像業界は4Kなどの進展もあり、より高精細化の方向に向かっている。これらのニーズに応えて開発した製品が屋外対応の3・9ミリピッチの製品である。屋外対応の製品としては業界でも最精細のLEDディスプレーとなる。映像機器のレンタル会社を中心に提案していきたい」と異口同音に話している。

香港のライトハウス社資本のライトハウスジャパンは、数ある中国系大型LEDディスプレーメーカーの中でも老舗中の老舗である。日本市場にも10年以上前から進出。国内の大手メーカー向けのOEM生産などで実績を重ねており、公営競技場や街頭大型ビジョンなどで同社製の大型LEDディスプレーの導入実績は数多い。

そのライトハウスが1・5ミリや1・8ミリピッチなどHDR対応の超高精細LEDディスプレー（屋内型）を今秋から発売する。ライトハウスジャパンのマネージャー、高須誠一氏は「今後、製造業などのデザインルームや監視制御などの市場で超高精細LEDのニーズは高まる」と説明している。

共信コミュニケーションズは、11月15―17日に千葉市美浜区の幕張メッセで開かれる「InterBEE2017」で、同社が取り扱う米シリコンコア・テクノロジー（シリコンコア）製の最新型1・2ミリピッチ4KHDR対応の超高精細LEDディスプレーを展示する予定。この製品はシリコンコア製の先進LEDドライバICの最新版「Z.A.C.H.」を搭載したLEDディスプレーとなる。国内ではこの展示会が初のお披露目となる。

日本のシリコンコア代表の梅村誠氏は「超高精細LEDパネルのパイオニアであり国内実績も高い当社のLEDスクリーンは超高精細ながら輝度2000cd/㎡（平方メートル）を実現できる。他社は明るくても1000cd/㎡程度でここが最大の差異化要因となる」と話している。

このシリコンコアも米国メーカーではあるが、中国で製造している。このように中国系メーカーが席巻する日本の大型LEDディスプレー市場ではあるものの、老舗の三菱電機や赤見電機に加え2020年の東京五輪へ向けての需要拡大に向けて、パナソニックやソニーも一部製品で国産化を始めている。日本メーカーの巻き返しも注目される。



JRA東京競馬場のLED大型ビジョンは国内最大級の大きさを誇る（三菱電機製／2017年10月撮影）

車載型システムも利用増加

車載型の大型LEDディスプレーの市場も再び活性化しつつある。ストロベリーメディアアーツの車載型大型LEDの「ビジョンランナー」は200型の新型機を制作し、沖縄県那覇市に納入した。同社の緒方克彦オーナーは「那覇市では、例えば港の入り口に車載型大型映像を持っていき、ウエルカムボードとして使用するなど観光情報表示版として運用する。当社でもレンタル用途でビジョンランナーを所有しており、イベントなどにレンタルしている」と話す。

浜松ケーブルテレビは、2016年7月に業界初の大型LEDモニター付中継車「ビジョンランナー」の運用を開始した。

大型映像機器レンタルの草分け的な存在であるヒビノは、新型の車載型LEDディスプレー「RIGGING MOVER MINI（リギングムーバーミニ）」を開発し今夏運用を開始した。

ヒビノビジュアルDiv.業務部の菊地利之氏は「日本では、東京五輪をはじめとする大規模な国際大会を連続して迎えることから、競技観戦を盛り上げる大型映像サービスの需要が高まっている。各地で催されるパブリックビューイングはもちろん、アウトドアスポーツやウォータースポーツなど大型映像システムの設置が困難とされてきた競技へも積極的に参画し、これまでにない観戦体験の提供を通じて、スポーツの熱気、興奮、感動を1人でも多くの人に届けたい」と語っている。

〈11面に続く〉

Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION
ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。
それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。
Capturing 撮る
Editing つなぐ
▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト
Showing 見せる


映像・音響機器のレンタル・販売　株式会社 銀座サクラヤ
http://www.ginzasakuraya.com

イベントの映像演出用途にも注力

〈10面から続く〉

車載型の大型LEDディスプレーは、ヒビノを筆頭にエルテック、ビジョンテクノネットなど多くのレンタル会社が多数導入し、各種のスポーツイベントなどで稼働してきた。2020年の東京五輪開催に向けて、第2次ブーム到来の予感がある。

銀座サクラヤは、エルテックが展開する「i—max」ブランドの高精細大型LEDディスプレーを導入した。このように映像機器レンタルの各社は、大型LEDディスプレーの拡充を実施している。


Jリーグのガンバ大阪が主催した国内最大級のマッピング（2017年3月、吹田スタジアム）

セイコーエプソングループは、セイコーエプソン（JR新宿ミライナタワー29階）を、タケナカが制作した360度マッピングでの空間演出を用いて、9月26日にリニューアルオープンした。

エントランスエリアの映像投写には、レーザー光源液晶プロジェクター「EB—L1300U」（輝度8000㍑）をはじめ、プロジェクターを合計29台使用している。

タケナカの長崎英樹専務は「映像コンテンツの第1弾は、水・樹・土・風など地球を構成するさまざまなものを表現する『Nature（自然）』をテーマとした。フロアに流れる川面には、脈々と受け継がれるエプソンのコア技術が、さまざまな商品に昇華していく様子を表現した」と話している。

このほかにタケナカでは姫路城や太陽の塔、新江ノ島水族館など多くの有名スポットでマッピングを展開しており、市場の活性化を図っている。

レイは、1981年にレーザー光線によるショー演出を制作する会社として発足した。その関連でマッピングの市場にも注力している。マッピングの用途も意識して高輝度大型プロジェクターのラインアップを拡大中である。

プロジェクションマッピング（マッピング）の市場も活性化している。

本社（エプソン）のオフィスエントランスエリアに流れる川面には、脈々と受け継がれるエプソンのコア技術が、さまざまな商品に昇華していく様子を表現した」と話している。

このほかにタケナカでは姫路城や太陽の塔、新江ノ島水族館など多くの有名スポットでマッピングを展開しており、市場の活性化を図っている。

レイは、1981年にレーザー光線によるショー演出を制作する会社として発足した。その関連でマッピングの市場にも注力している。マッピングの用途も意識して高輝度大型プロジェクターのラインアップを拡大中である。

同社は、バルコ製「HDX—W20FLEX」10台、クリスティ製「HD—20K—J」23台、同「BOXER4k30」12台など、業界でも屈指の品ぞろえを誇り、大型イベントやマッピングイベントなどに対応する。

このほか、東京五輪を控えてパナソニック製の高輝度プロジェクターの需要も拡大している。タケナカでは今年3月、パナソニック製の4K3万㍑のプロジェクターを多数使い、大阪府吹田市のサッカー場吹田スタジアムで国内最大級のマッピングを実施した事例もある。

このようにマッピング市場も進化を続けている。

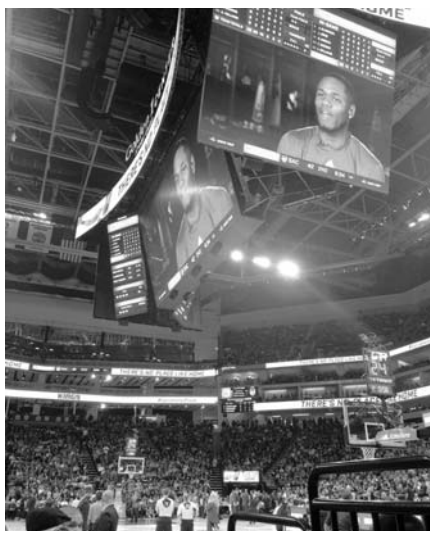
大型映像業界 特集

アブセンジャパン

NBAに4K大型LEDビジョン
コート上部に設置、リボン型も

NBA（米国プロバスケットボールリーグ）のサクラメント・キングスの新本拠地で使用される屋内競技場「ゴールデン1センター」（カリフォルニア州サクラメント）に、NBA初となる4K対応大型LEDビジョンとして、アブセン製が導入された。競技場の映像系メインクライアントはパナソニック。アブセンは大型ビジョンで機材協力をした。

コート天井につり下げられた大型LEDビジョンは、正面、背面のメインが4K仕様。パネルサイズは横10㍍、縦7・5㍍（画素数3888×2160㌦）。メインディスプレーを囲むのが、スコア表示用に左右に設置された縦長パネル（画素数864×2160㌦）、さらに左右側面には主にクローズアップ表示用パネル（画素数2448×2160㌦）の3面システムという構成となっている。縦の画素数は2160㌦で統一されている。


米国のプロバスケットボールリーグのNBAのスタジアムでもアブセン製のLEDディスプレーが活躍している

場内の2、3階のテラス前面に設置された観客席を取り巻くようなリボン型LEDディスプレーは、縦2・88㍍、横115・2㍍の超ワイド型。このLEDパネルの画素数は640×960㌦である。1パネルごとの組み合せが自由自在というLEDビジョンの特徴が生かされた格好だ。

ここで使用したLEDパネルのユニットは用途別に、メインの4Kセンター3・47㍉ピッチをはじめ、6・66㍉、10㍉、16㍉ピッチ（リボン）の4種類となっている。メンテナンス部はリア、フロント両対応型とし、リボン型については背後が構造物のため、上側に設けた。

アブセンは、これらのLEDディスプレーをすべて提供。その総画素数は3300万画素、面積は1288平方㍍になったという。

日本支社アブセンジャパンのショールームでは、常に最新モデルを展示している。メンテナンス業務もここで対応している。





大型映像業界特集

長年の経験生かし事業展開
高精細ＬＥＤ「ｉ―ｍａｘ」導入

銀座サクラヤ



銀座サクラヤが所有する「i-max Light 3」

銀座サクラヤは、１９４６年の創業から70年の長きにわたり映像・音響機器の販売、ＡＶシステムの企画・施工、映像ソフト制作、映像・音響機器のレンタルサービス業などを主業務としており、この業界の老舗的立場にある企業である。

同社の浅沼健司取締役は「長年事業を手掛けてきた当社が経験してきたのは、製品技術とソフト開発の目覚しい進歩の歴史だった。当社の歴史は、世に溢れる新技術と製品の情報を集め、見極め、どのように活用するかというノウハウと実績を積み重ねてきた年月と言っても過言ではない。さまざまな部門の技術とノウハウを集約し、映像に関するすべてを提供できることが当社の強みである」と話す。

同社は「ｉ―ｍａｘ Ｌｉｇｈｔ３」（画素３・９ミリメートルピッチ ＬＥＤディスプレー屋内用）は、輝度が１０００カンデラ／平方メートルで、３ｉｎ１ ＳＭＤのＬＥＤ素子を利用、水平垂直１６０度でユニットサイズは幅５００ミリメートル×高さ５００ミリメートル×奥行き55ミリメートルである。

「ｉ―ｍａｘ９」（画素９・０ミリメートルピッチ／シースルーＬＥＤ、屋外・屋内用）輝度は４０００ｎｉｔｓで防水規格ＩＰ６５に対応している。ユニットサイズは幅８００×高さ８００×奥行き１２ミリメートル。

浅沼氏は「現在、高精細（１・９―２・６ミリメートルピッチ）のＬＥＤ導入を検討しており、さらに製品ラインアップを充実させて、運用中の中継システムとの組み合わせで、多くのお客様にサービスを提供していきたい」とアピールしている。

中継システムとの組み合わせも

レイヤードジャパン

レイヤードジャパンは博多区）に納入した。同10月、レンタル向けとして国内初の屋外用ＬＥＤディスプレー（３・９ミリメートルピッチ ブラックＳＭＤ採用）の新型機種「ＣＬＯ３ＢＫＣＬＴ」を、西日本シネ用品（福岡市社として初めてのＬＥＤディスプレーの導入となり、最新屋外用高輝度機種の採用で幅広く活用していく予定だ。

レイヤードジャパン社長の三浦衛氏は「屋外コンサート市場などが拡大しており、映像機器のレンタル会社では４Ｋなどの高精細映像の進展に伴い、ＬＥＤディスプレーでも高精細型の需要が拡大している。さらに軽量のＬＥＤのニーズも高まっている。当社はそれに対応した製品をラインアップしている」と話す。昨年のＮＨＫ紅白歌合戦のメインステージでは、レイヤード製のＬＥＤディスプレーが数多く利用された。今年も数多く利用される予定。プロバスケットのＢリーグ開幕戦の東京ゲームショウでも活躍。10月下旬から開かれる東京モーターショーで同社製の最新型ＬＥＤディスプレーが多数利用されるという。

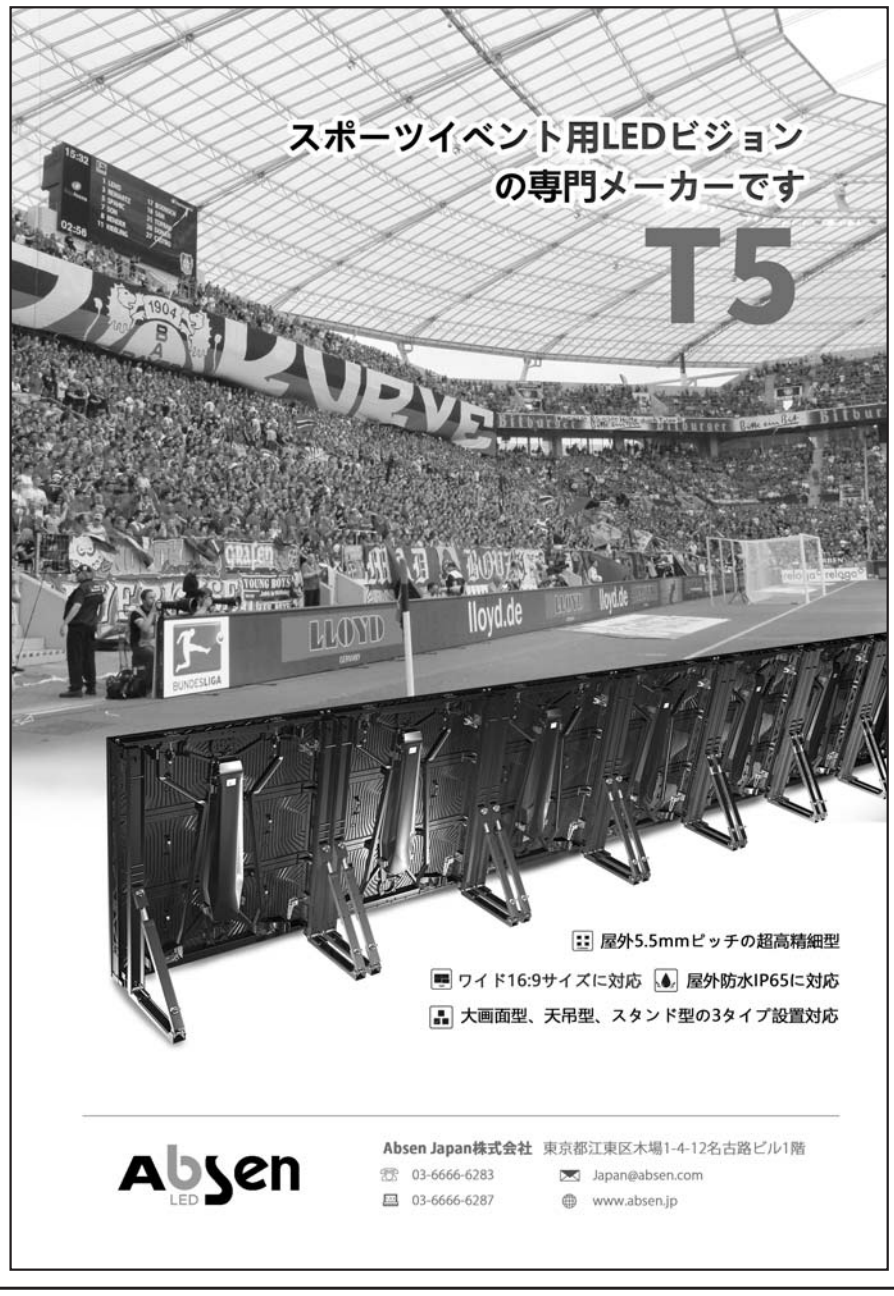
屋外用LEDの需要が拡大
高精細型製品ラインアップ



三浦氏とレイヤード製LEDディスプレー

三浦氏は「映像機器のレンタル会社や自動車会社などのデザインルーム、街頭の大型ビジョンなどでも当社製のＬＥＤディスプレーの導入は進んでいる。当社は超高精細のハイレゾタイプから競技場向けなどの屋外タイプまで幅広いラインアップがあるのも特徴だ。さらに有機ＥＬや液晶ディスプレーなどのＬＥＤ以外のディスプレーも当社で扱っている。日本市場では引き続き確かな製品をユーザーに届けていきたい」と意欲を示している。





ストロベリーメディアアーツ

車載大型ＬＥＤ展開

２００型機種を那覇市に納入

ストロベリーメディアアーツ（ストロベリー）が展開する車載型大型ＬＥＤの「ビジョンランナー」は２００型の新型機を製作し、沖縄県那覇市に納入した。

同社の緒方克彦オーナーは「那覇市では、例えば港の入り口に車載型大型映像を持っていき、ウエルカムボードとして使用。また地域のお祭りやイベントなどでも稼働し、観光情報表示版としても運用している。また当社でもレンタル用途でビジョンランナーを所有しており、イベントなどにレンタルしている。デジタルサイネージ市場が拡大していく中、屋外でも安定して見ることのできるディスプレーはＬＥＤしかない。今後もＬＥＤ製品の技術開発を進め、東京五輪に向けて拡大するイベント需要に対応していく」としている。

「ビジョンランナー」では、イベント会場でのカメラ中継によるライブ映像、テレビ放送など、迫力ある映像をリアルタイムに届ける車載ＬＥＤ。画面には直射日光にも左右されないＳＭＤを使用したフルカラー大型ディスプレーを採用している。

浜松ケーブルテレビ（ケーブル・ウィンディ／静岡県浜松市）は、２０１６年７月に業界初の大型ＬＥＤモニター付き中継車「ビジョンランナー」の運用を開始した。同社が導入した「ビジョンランナー」は、ストロベリーが展開している車載型のＬＥＤ大型ビジョン搭載車両をベースにケーブル・ウィンディの要望もあり中継車の機能をプラスしたものである。

中継車の設備も含めて、すべてストロベリーが設計施工を担当した。車両サイズは全長７・６９㍍×全幅２・４９㍍×全高３・７１㍍。ＬＥＤディスプレーの画面サイズは約１８０型相当。スピーカーは１５０㍗×２、ワイヤレスマイク２本を搭載している。



ストロベリーメディアアーツの「ビジョンランナー」

タケナカ

360度マッピング技術活用

映像コンテンツで空間演出

セイコーエプソングループはセイコーエプソン本店およびエプソン販売本社（エプソン）のオフィスエントランスエリア（所在地＝ＪＲ新宿ミライナタワー29階）を、タケナカが製作した３６０度プロジェクションマッピング（マッピング）での空間演出を用いて、９月26日にリニューアルオープンした。

エプソン販売の販売推進本部ＶＰ ＭＤ部長の蟹澤啓明氏は「普段から当社がつき合いのあるマッピング会社に声をかけ、入札方式でタケナカに今回の演出などを依頼することになった。約３カ月というタイトなスケジュールでタケナカには頑張ってもらい感謝している。プロジェクターの国内シェアトップのエプソンとして、長期ビジョン『Ｅｐｓｏｎ25』におけるビジュアルイノベーションの目指す世界感を体現するために、プロジェクターの特徴を生かした映像空間を創出した」と説明する。

そして、エントランス空間演出のコンセプトをＥｐｓｏｎとＧｌｏｂｅの頭文字を組み合わせた「Ｅ．Ｇ．」と名付け、エプソンが地球上のすべての人々に価値を提供し、未来を創造していくという思いを込めたという。

エントランスエリアの映像投写には、明るい常設モデルでレーザー光源液晶プロジェクター「ＥＢ－Ｌ１３００Ｕ」（輝度８０００㍑）をはじめ、プロジェクターを合計29台使用している。

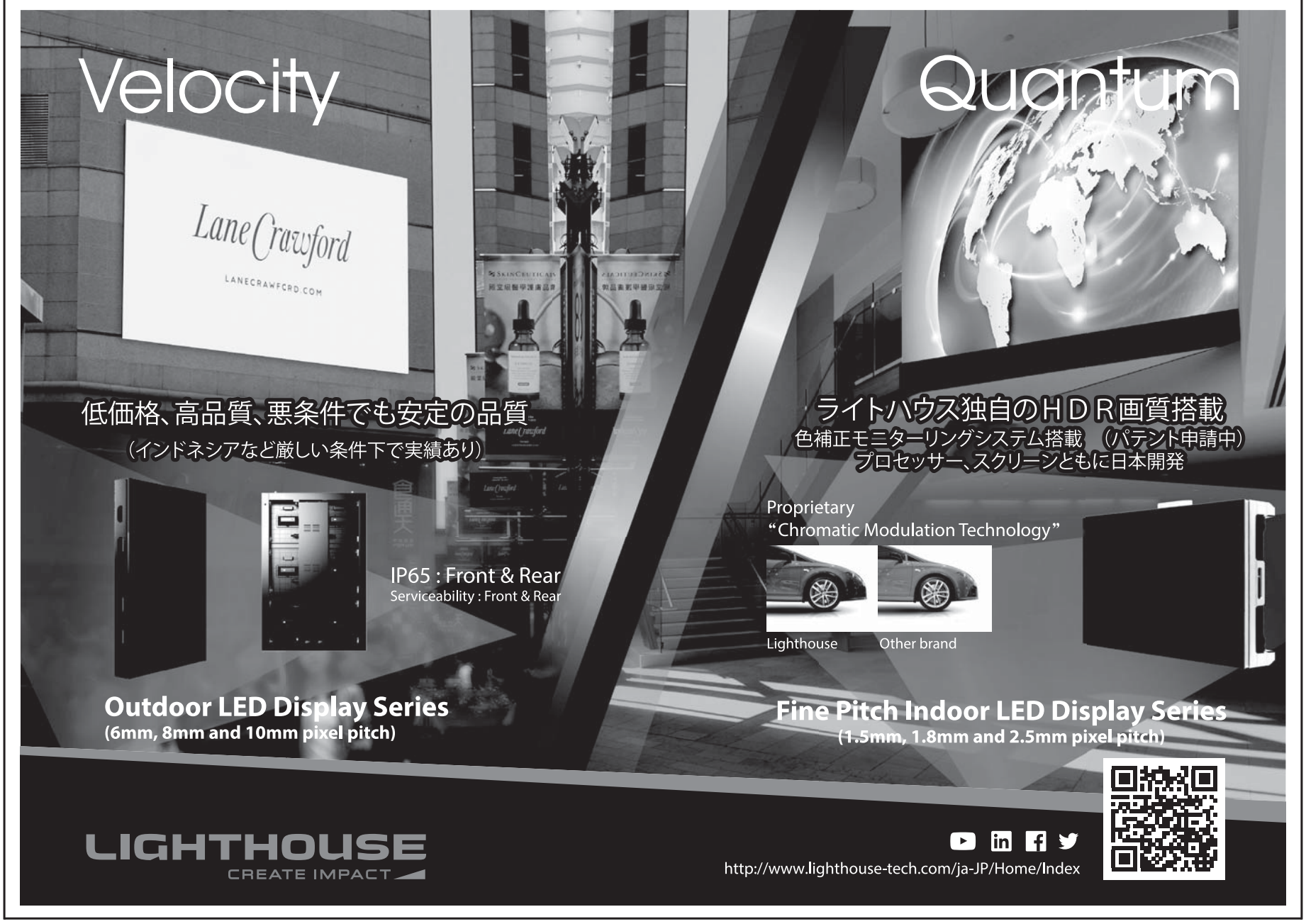
タケナカの長崎英樹専務は「映像コンテンツの第１弾は、水・樹・土・風など地球を構成するさまざまなものを表現する『Ｎａｔｕｒｅ（自然）』をテーマとした。壁面には鮮やかな緑、天井部には雲の創造物が飾られ、インタラクティブ機能により映像が変化する演出を施している。さらに、フロアに流れる川面には、脈々と受け継がれるエプソンのコア技術が、さまざまな商品に昇華していく様子を表現した」と話す。

なお、このエントランスエリア見学は、エプソン商品の購入検討企業や、プロジェクター空間演出検討企業などビジネス用途での顧客を対象としている。見学希望の場合は予約（完全予約制）が必要で、エプソンのウェブサイトのオフィス向けショールームページから申込みができる。



エプソンのショールーム入り口を全面マッピングで演出

大型映像業界特集



大型映像業界 特集

共信コミュニケーションズ

米シリコンコア製の最新型 Inter BEE 2017で初披露

11月15―17日の日程で千葉市美浜区の幕張メッセで開かれる「Interr BEE 2017」において、共信コミュニケーションズは同社が取り扱う米シリコンコア・テクノロジー（シリコンコア）製の最新型1・2ミリピッチ4K HDR対応の超高精細LEDディスプレーを展示する予定だ。

この製品は10ドットで220型の大画面になる。この製品はシリコンコアが誇る先進LEDドライバーICの最新版「Z.A.C.H.」を搭載したLEDディスプレーとなる予定である。

シリコンコアのパテントである「Z.A.C.H.」とは、Z（インピーダンス）Adjustment for Color Homogeneityの略で、ドライバーICに組み込まれたZACH機構が、各LEDのインピーダンス変動を正確に検出し、それぞれに適した調整を施すことにより、非常に低い輝度レベルにおいても均一な輝度と色を実現している。国内ではこの展示会が初お披露目となる。



「Z.A.C.H.」対応の大型LEDディスプレー

また、シリコンコアは9月、東京・六本木ヒルズ内のホテル「グランドハイアット東京」に同社製高精細LEDディスプレーを新たに4面納入したことを発表した。

日本のシリコンコア代表の梅村誠氏は「超高精細LEDパネルのパイオニアであり国内実績も高い当社のLEDスクリーンは超高精細ながら輝度2000cd/㎡を実現でき、窓を大きくとった部屋や場所においても外光に影響されず鮮明に映像を見ることができる。これまでも当社は超高精細LEDディスプレーに特化した事業体制を構築してきた。今後もこの方針に変更はなく、根幹であるドライバーICの技術革新、COB方式やHDR対応などの技術も取り入れながら多くのユーザーニーズに応える製品を提供していきたい」と話している。

ライトハウスジャパン

HDR対応の超高精細型を発売 屋内サイネージなどで展開


高須氏とライトハウスの超高精細LEDディスプレー（画面はHDR/SDRを左右で比較）

香港のライトハウス社資本のライトハウスジャパンは、1・5ミリピッチや1・8ミリピッチなど、HDR対応の超高精細LEDディスプレー（屋内型）を今秋から発売する。

ライトハウスジャパンのマネージャーの高須誠一氏は「当社はこれまで屋外向けのスポーツ施設や公営競技場、街頭大型ビジョンなどに実績があったが、今回は屋内のデジタルサイネージや監視制御・設計デザインなどの市場向けに1ミリピッチ台の超高精細LEDディスプレーを開発した。今後、日本国内でも拡販していく」と説明する。

ライトハウスは、数ある中国系大型LEDディスプレーメーカーの中でも老舗中の老舗である。日本市場にも10年以上前から進出しており、あまり表に出ることは少ないものの、国内の大手メーカー向けのOEM生産などで実績を重ねており、公営競技場や街頭大型ビジョンなどで同社製の大型LEDディスプレーの導入は数多い。

同社製品を扱う会社の1つであるニューフォリア デジタルサイネージ事業部マネージャーの角井成次氏は「当社の提案する近未来のソリューションを実現するためのディスプレーの1つとして、超高精細LEDディスプレーもラインアップしている。当社でもシステム構築の1つとして液晶ディスプレーや有機ELディスプレーなどとともにLEDディスプレーを採用し、進化するサイネージ市場に提案していく。HTML5を活用したウエブ技術を基に、さまざまな形でのサイネージが構築できると思う。ディスプレーの進化にも期待したい」と意欲を示している。

ライトハウス新製品の1・5ミリピッチLEDディスプレーは明るさが800nits。HDRに対応しており、よりクリアで鮮明な映像の表示が可能だ。

高須氏は「既に欧米を中心に導入実績がある。日本国内でも超高精細LEDディスプレーを扱う会社は多いが、長年の実績のある当社製品は、メンテナンス体制も万全だけに安心して使ってもらえるシステムと自負している」と話している。



レイ

超高輝度プロジェクター ラインアップを拡充

レイは、1981年にレーザー光線によるショー演出を制作する会社として発足した。以来、その活動の幅を広げ、現在では、CMをはじめとする映像制作、イベントやプロモーションの制作、デジタルコンテンツ制作、DVDやブルーレイのパッケージ制作、映像編集スタジオ、映像機器レンタルなど、広告を中心とした企業コミュニケーションからコンサート演出などのエンターテインメント分野に至るまで、売上高100億円規模の企業として幅広い分野で活動している。

レイは、企画制作力と技術力で、企業コミュニケーションやエンターテインメントを中心に、多彩なソリューションを創造し、喜びと感動を提供し続けている。

大型映像関連ビジネスでは、コンサートなどで使う大型LEDディスプレーのほか、2万―3万ルーメンの超高輝度プロジェクターを順次導入している。今後はクリスティ・デジタル・システムズ（クリスティ）製の4K対応で3万ルーメンの高精細高輝度プロジェクター「BOXER4k30」を皮切りに、4Kなど高画質に対応した大型プロジェクターのラインアップを充実させていく予定だ。


レイが12台所有するクリスティ製の4K対応高精細高輝度プロジェクター「BOXER4k30」

高輝度大型プロジェクターのラインアップはバルコ製の「HDX―W20FLEX」10台、クリスティ製の「HD―20K―J」23台、クリスティ製の「BOXER4k30」12台など、業界でも屈指の品ぞろえを誇り、大型イベントやプロジェクションマッピング（マッピング）イベントなどに対応する。

イベント事業本部営業企画部の渡辺裕司氏は「大型ホテル壁面へのマッピングやコンサート、ミュージカル、各種イベントにおいて当社の大型映像機器は活躍している」と語っている。

ヒビノ

オールインワンの大型映像 機動性が高い車載型運用

ヒビノは、オールインワンで機動性が高い車載型LEDディスプレーシステム「RIGGING MOVER MINI（リギングムーバーミニ）」のレンタルを今夏から開始した。

「RIGGING MOVER MINI」は、放映に必要なLEDスクリーン、架台、電源、映像・音響システムを備えたオールインワンタイプで、コンパクト設計ながら2.03型（幅4・48メートル×高さ2・56メートル）の迫力ある映像を提供する。画素ピッチは8ミリメートル。設置場所を選ばず、また、舞台等の大掛かりな構造物や外部電源を必要としないことから、イベント運営コストの抑制にも貢献する。



「RIGGING MOVER MINI」

ヒビノビジュアルDiv.業務部の菊地利之氏は「当社は、コンサート・イベントで使用する大型映像システムのレンタルと設置・オペレートの運用サービスを長年実施している。スポーツや野外ライブなどの分野を収益の柱に育てる取り組みの中で、主力機材であるLEDディスプレーをいかなるシチュエーションでも提供できるよう、機動力の高い新型の車載型LEDディスプレーを導入した」と語る。

さらに「国内では、2020年東京五輪をはじめとする大規模な国際大会を連続して迎えることから、競技観戦を盛り上げる大型映像サービスの需要が高まっている。各地で催されるパブリックビューイングはもちろん、アウトドアスポーツやウォータースポーツなど大型映像システムの設置が困難とされてきた競技へも積極的に参画し、これまでにない観戦体験の提供を通じて、スポーツの熱気、興奮、感動を1人でも多くの人に届けたいと考えている」と新製品の投入などで事業の拡大に意欲を示していた。

けん引車を切り離し、従来の車載型では難しかった狭い場所や厳しい自然環境下にも設置できる。高輝度5000カンデラ／平方メートルの全天候対応LEDスクリーンは、パナソニック製でメイドインジャパン。ヒビノが独自開発したLEDプロセッサーおよび伝送方式により、高画質・高信頼性を生み出している。

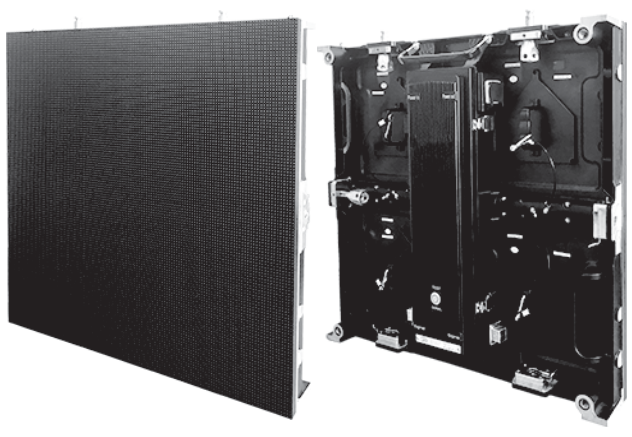
スポーツ大会（競技ライブ映像表示）、パブリックビューイング、屋外コンサート（後方客席向け映像表示）自治体・地域イベントなどでの利用が期待されているという。

大型映像業界特集

Black Hole 3.9Bio

屋外対応型 3.9mm ピッチ高精細 LED





コントラスト比　5,000：1　　明るさ　5,000 nit

屋外対応モデルとしては高精細な 3.9mm ピッチの LED ディスプレイです。
従来の屋外対応型 LED ディスプレイに比べ薄型モデルとなっています。

Inter BEE 2017 出展します！
映像表現 /プロライティング部門　ホール6　6002

VISION RUNNER
イベント会場でのカメラ中継による
ライブ映像など、ど迫力の映像を
リアルタイムにお届けする車載 LED。
ビジョンランナーは用途に合わせて
個別に製造しています。



株式会社ストロベリーメディアアーツ
本社:〒751-0806　山口県下関市一の宮町3-11-4
TEL:083-263-3040　FAX:083-263-3041
オフィス一覧　東京　美女木　名古屋　大阪　広島　松山　福岡　北九州　鹿児島　沖縄
http://www.smacom.jp

「情報」がビジネスを熱くする。

映像新聞は、放送やブロードバンド、デジタルコンテンツプロダクション、映像制作者など映像業界へ向け、ビジネスとテクノロジーの両視点で情報を発信している専門紙です。映像のデジタル化は、デジタル放送やデジタルシネマといった新しい文化を創り、ブロードバンドにより新しいコミュニケーションを発達させました。映像新聞は、これらの動きをいち早く伝え、新鮮な情報をお届けいたします。
ビジネスを熱くするメディア……それが「映像新聞」です。

映像新聞

毎週月曜日、月4回発行（年間48回発行）
基本ページ数
20ページ／タブロイド判
年間購読料：26,000円（送料込み）＋消費税
海外での購読の場合は、消費税分を除いた料金に別途送料がかかります。　詳しくはお問い合わせ下さい。

短期購読および複数購読のご案内

●短期購読の場合
◎3カ月購読の場合：7,200円（1部600円×12回）＋消費税
◎6カ月購読の場合：14,400円（1部×24回＋消費税）

●複数購読の場合（年間購読契約のみ）
対象となる購読者（以下の3つの条件をすべてを満たすこと）
◎送付先が同一であること
◎請求先が同一であること（送付先とは別でも可）
◎購読契約期間（契約更新月）が同一であること

※料金（申し込み部数により料金を割引きます）
・2–5部は**10%**割引き　（1部、年間23,400円＋消費税）
・6–9部は**20%**割引き　（1部、年間20,800円＋消費税）
・10部以上は**30%**割引き（1部、年間18,200円＋消費税）

ご注意　ご住所、貴社名、所属部門、ご担当者氏名、連絡先をご記入の上、FAXでお送りください。請求書を発行いたします。

✓□を入れてＦＡＸ 03-3942-2581 までどうぞ　　年　月　日

□　映像新聞年間購読　　月号から　　部
□　映像新聞短期購読　　3・6　ヶ月　　部
□　映像新聞見本紙　　1部

送付先

貴　社　名
所属・役職　　氏　　名
住　　所　〒（　　ー　　）
電　　話　（　　）　　ー　　ＦＡＸ（　　）　　ー
Ｅ－ｍａｉｌ

請求先（送付先と異なる場合）

住　　所　〒（　　ー　　）
電　　話　（　　）　　ー　　担　当　者

ウェブサイトからもお申し込みができます　http://www.eizoshimbun.com

●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ。
映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル　TEL 03-3942-2161　FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

戦争で恋人を失ったドイツ人女性
謎の青年との出会いと衝撃真実
カラーと白黒映像で感情を演出
「婚約者の友人」

フランスの中堅人気監督フランソワ・オゾンの新作『婚約者の友人』（2016年）が公開される。今や若手から中堅監督への域に達する彼は、デビュー当時からの瑞々しい才気で、フランス映画界の寵児（ちょうじ）として、もてはやされたが、彼の映画感性の良さは本作でも冴（さ）えている。

（中川洋吉・映画評論家）



「婚約者の友人」（アドリアン㊧とアンナ）
©2015 MANDARIN PRODUCTION-X FILME -MARS FILMS-FRANCE 2 CINEMA-FOZ-JEAN-CLAUDE MOIREAU（以下同じ）

物語の発端は、あるドイツ兵士の墓地に見知らぬフランス人青年がたたずみ、何やら物思いにふけっている光景である。それを目撃するのは、亡きドイツ人兵士の婚約者であるアンナだ。

核となる人物は、ドイツ人の戦死者フランツと、見知らぬフランス人青年のアドリアン、そして若いドイツ人女性アンナである。アドリアンとアンナは全く面識がない。この関係性が筋の主軸となる。

◆第一次大戦後の仇敵独仏

時代は第一次世界大戦終了直後の1919年で、舞台はドイツの地方都市クヴェートリンブルグ。静かな石畳、昔ながらの低い家々と、往時の面影が保存されている。この舞台設定は、物語にリアリティーと重厚な雰囲気を与えている。

本作はモノクロとカラーの併用で、特にモノクロ部分が戦前のドイツの地方都市の古い街並みを際立たせている。

◆アドリアンとアンナ

アンナは、亡き婚約者フランツ（原題は『フランツ』）の墓地でアドリアンと初対面する。青年はその足で、フランツの父で医者であるハンスに会いに行く。しかし、戦争直後のドイツは反フランス感情が強く、アドリアンはハンスから面会を拒絶される。ここに独仏戦争の、戦後の一面が写し出される。

その様子を見て、アンナはアドリアンのホテルに向かい、メッセージを残す。当時、若いアンナは身寄りがなく、本物の戦場で偶然にフランツからアンナへの手紙を見つけ、ハンス夫妻一家の存在を知る。そして個人的弔意を表すために、敵兵フランツの墓地に詣でたのだ。



アンナ

もう1つ、大きな謎が彼から待望の手紙が届く。そこには彼が本当のことを自らハンス夫妻に直接話し、詫びたい旨がしたためてあった。ここからのアンナの反応が興味深く、作り手、オゾン監督の狙いがくっきりと浮かび上がる。

◆アンナのパリ行きの決心

息子の婚約者をわが娘のようにかわいがるハンス夫妻は、親代わりともいえる存在である一方、フランス人アドリアンに対しても息子のような感情を抱き続けている。彼らは常にアドリアンの消息を心配し、彼からのアンナへの手紙を非常に気にしている。

厳格な医師であるハンスは、当初は敵国フランスを憎み、アドリアンを追い返すほどであったが、彼と接するうちに考えが変わる。ハンスは仲間内の集まりで、皆がフランスの悪口を言うが、「戦場に息子たちを送り出したのは、われわれ父親たちなのだ」とする、良識の人でもある。

夫妻のアンナに対する言葉が温かい。ハンスは「息子を失くした後、生きて来られたのは、アンナのお陰。今こそ彼女自身が外に出て生きる番」とアンナを励ます。マグダも「人生はこれから、チャンスを逃さないで」と、2人して彼女のパリ行きを勧める。彼らの心優しい励ましに背中を押され、彼女はアドリアンの消息を求め、パリへ向かう。

◆アドリアンを探して

生死不明のアドリアンを探すアンナは、少ない手がかりを元に八方手を尽くし、とうとう彼を見つける。彼は地方名家の子息で、今は大きな館で母親と住んでいる。彼も告白の直後、自殺未遂を図ったこと、婚約者と1カ月後に結婚を控えていることを話す。



アドリアン

夕食後のミニ・コンサートで、アドリアンのバイオリンに合わせてアンナはピアノを弾くが、突然中断する。ちょうど、彼がドイツでバイオリンの演奏中に倒れたように。

この時点でアンナは、もはや自分の居るべき場所は自分で探さねばならないことを悟る。一段と人間的に強くなり、新しい人生を歩む決心をする。

作中、オゾン監督は1つの問題を投げ掛ける。ハンス夫妻への配慮から、アンナは常に「アドリアンは元気」と、うそをつき続ける。うそとは否定的面でとらえるだけではなく、時には必要とされるのではないかとし、この考えは作中一貫している。面白い発想である。

映像的には、極めて興味深い試みがなされている。既述のカラーとモノクロの併用である。その使い分けは、過去はモノクロ、現在はカラーと定番的手法ではない。強い感情を表現する手段として、回想シーンやうそのシーン、幸せシーンにカラーを用いる。この使い分けが視覚的に心地よい。

原案は、エルンスト・ルヴィッチ監督のハリウッド映画『私の殺した男』（1932年）であり、オゾン監督が再構築し映画化した。

本作、格調が高く、筋の展開に乙張（めりはり）が効き、1人の女性の再出発というテーマをきっちり伝えている。オゾン監督の健在を強く思わす作品だ。

〈文中敬称略〉

■『婚約者の友人』は、10月21日からシネスイッチ銀座ほか全国順次公開

◆意外な告白

ある時、プロのバイオリン奏者であるアドリアンは、ハンス夫妻に所望され演奏するが、突然気を失い倒れる。また別の機会に、彼は一家に招かれるものの姿を現わさない。

不安に思うアンナは彼のホテルを訪れるが、彼は外出中で、翌朝パリへ出発することを知らされる。アンナは、彼が墓地にいるのではと訪れてみると、案の定、アドリアンの姿があった。

ここで彼は、今までとは全く違う話を始める。実は、フランツとのパリでの交友はうそであり、アドリアンの口から語られるが、ストーリーの中の大きなドンデン返しであり、見てのお楽しみとする。

◆その後の2人

アドリアンの告白の後、2人は別れ、アンナ中心の物語となる。ここで、前半の大きなヤマからラストへと雪崩れ込む構成となり、オゾン監督自身の脚本の練りが光る。

アンナはアドリアンに好意を抱くが、真実に打ちのめされ入水自殺を図る。幸い一命を取り止める。ドイツから離れる際、彼は彼女に手紙を書くことを約束する。

長い間待たされた後に、

映像新聞 無料メールマガジン
Vizcom ヴィズコム
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早くご提供していきます。映像新聞および、映像新聞ウェブサイトも同様にご愛顧ください。
配信登録は
www.eizoshimbun.com

新発売 映像新聞 縮刷版
2017年前期版（1月～6月）
半年分の映像新聞を1冊にまとめた「2017年前期縮刷版」が発行となりました。めまぐるしく変化する映像業界の動向を集約する「映像新聞縮刷版」は、目次には、ジャンルごとに項目を掲載し、業界の動向が簡単に索引できるようになっております。企業のビジネス戦略において、貴重な情報ツールとして、また、保存版の映像新聞として広くご利用いただいております。
仕様：A4判／価格：7,000円（税別、送料別途）


ご購入は映像新聞ウェブサイトからお申し込みいただけます　www.eizoshimbun.com
アマゾン（www.amazon.co.jp）、富士山マガジンサービス（www.fujisan.co.jp）からもご購入いただけます
●ご購読のお申込み・お問い合わせはこちらへ
株式会社映像新聞社　〒112-0006　東京都文京区小日向1-24-8エイゾービル／TEL：03-3942-2161／FAX 03-3942-2581　e-mail：info@eizoshimbun.com

映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

全国の入札情報を毎日メールでお届け！
だからビジネスチャンスを見逃さない！

入札王
入札情報提供サービス

映像入札王とは？

中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の入札情報を提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を毎日ご提供します。

その特長は

1 業界最大級の圧倒的な網羅性

全国の発注機関（5,000 機関 8,000 サイト以上）を網羅。
専門スタッフの手動収集とプログラム収集の併用で収集漏れを回避。

2 案件見逃しゼロを実現

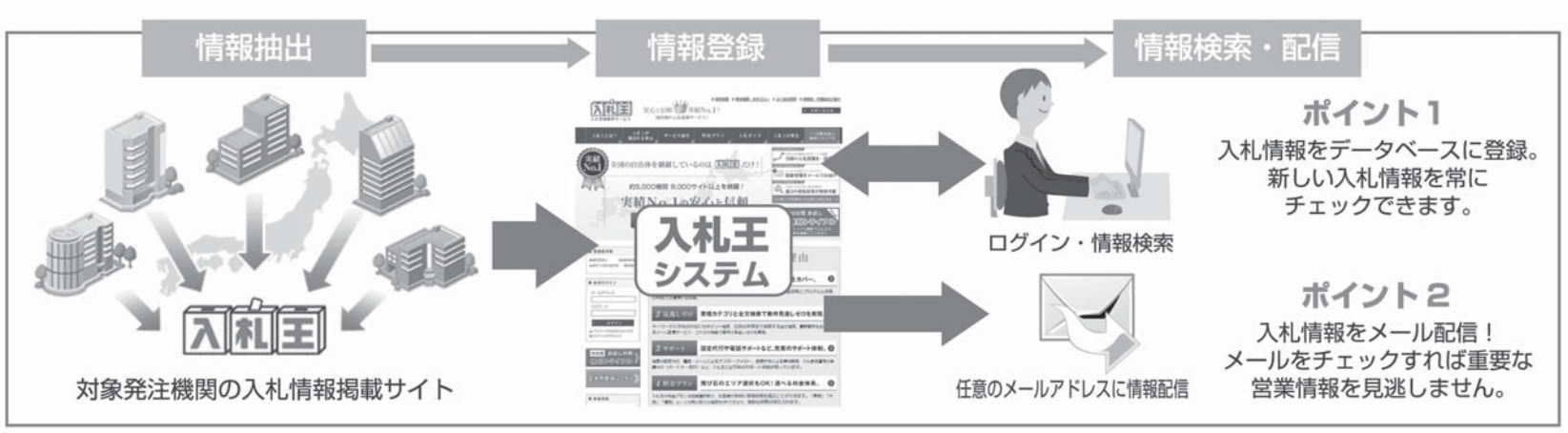
キーワードに左右されないカテゴリー検索、公告の中身まで検索する全文検索、最新案件をお届けするメール配信サービス、これらの機能で案件の見逃しゼロを実現。

3 充実のサポート体制

検索の設定代行、電話・メールによるアフターフォロー、訪問デモによる操作説明、入札参加資格の申請代行（パートナー紹介）など、入札王には万全のサポート体制が整っています。

4 リーズナブルな選べる料金プラン

入札王の料金プランは地域選択制で、お客様が自由に都道府県を選ぶことができます。「東京」「大阪」「福岡」といった飛び石での指定も OK ですので、無駄な経費が抑えられます。



10 日間 お試し
無料トライアル実施中

トライアル期間で入札王の
効果を実感してください

http://www.eizoshimbun.com

※『映像新聞』購読の方は、下記料金から 5%引きとなります。

料金表

入札王の料金表（税別）は次のとおりです。

発注地域の選択数	契約期間6ヶ月	1ヶ月あたり料金	契約期間12ヶ月	1ヶ月あたり料金
3都道府県	¥55,000	¥9,167	¥95,000	¥7,917
4都道府県	¥71,000	¥11,834	¥125,000	¥10,417
5都道府県	¥88,000	¥14,667	¥155,000	¥12,917
6都道府県	¥105,000	¥17,500	¥185,000	¥15,417
7都道府県	¥121,000	¥20,167	¥215,000	¥17,917
8都道府県	¥138,000	¥23,000	¥245,000	¥20,417
9都道府県	¥155,000	¥25,833	¥275,000	¥22,917
10都道府県	¥163,500	¥27,250	¥290,500	¥24,208
20都道府県	¥243,000	¥40,500	¥434,000	¥36,167
30都道府県	¥272,000	¥45,333	¥473,000	¥39,417
40都道府県	¥291,250	¥48,542	¥502,500	¥41,875
47都道府県	¥300,000	¥50,000	¥520,000	¥43,333

※15 都道府県、27 都道府県等もございますのでお問い合わせください。　（税別）

●お問い合わせはこちらへ。
株式会社ズノー 入札王事務局　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2 トウセン東麻布ビル 8F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

アスク

「Post IBC」内覧会
AJA、NewTek製品紹介

アスク メディア&エンタープライズ（M&E）事業部は、10月17、18日の2日間にわたり、内覧会「Post IBC2017」を開く。同社の扱うAJA、NewTekのIBC2017で発表した新製品・最新情報を中心に紹介する。

17日（14―18時）は、販売会社向け。AJA／NewTek製品を販売する販売会社、および新たに取り扱いたい、販売したいなど販売意欲のある販売会社が参加対象となる。

18日（10―18時）は、ユーザー向け。AJA／NewTek製品の利用者、導入を検討し他社製品との比較をしたい人など、映像にかかわるすべての人が対象。

主な展示製品は、AJA FS―HD、RKi Plus、HELO、NewTekがTriCaster TC1、NDI（東京都渋谷区恵比寿4―20―3 恵比寿ガーデンプレイスタワー4階）

【参加費】無料

【詳細】www.ask-media.jp/news/181-ask/1293-post-ibc-2017.html

【問い合わせ】アスクM&E事業部／Eメール＝info@ask-media.jp／☎03―5215―5676

【会場】SPACE6（東京都渋谷区恵比寿4―20―3 恵比寿ガーデンプレイスタワー4階）

【参加費】無料

【詳細】www.ask-media.jp/news/181-ask/1293-post-ibc-2017.html

【問い合わせ】アスクM&E事業部／Eメール＝info@ask-media.jp／☎03―5215―5676

【会場】SPACE6（東京都渋谷区恵比寿4―20―3 恵比寿ガーデンプレイスタワー4階）

【参加費】無料

【詳細】www.ask-media.jp/news/181-ask/1293-post-ibc-2017.html

【問い合わせ】アスクM&E事業部／Eメール＝info@ask-media.jp／☎03―5215―5676

【会場】SPACE6（東京都渋谷区恵比寿4―20―3 恵比寿ガーデンプレイスタワー4階）

【参加費】無料

【詳細】www.ask-media.jp/news/181-ask/1293-post-ibc-2017.html

【問い合わせ】アスクM&E事業部／Eメール＝info@ask-media.jp／☎03―5215―5676

スタジオ・ナチュレーザ

広告とネットをテーマに
音楽ライツセミナー開催

スタジオ・ナチュレーザ（大阪市北区）は、コンテンツ関係者のための音楽ライツセミナー第2回「広告とインターネットにかかわる音楽権利の最新事情」を、10月27日に都内で開く。広告音楽におけるリスクポイントと、YouTubeにおける権利認識システムという2つのテーマで、その最前線のスペシャリストが最新情報を交えて分かりやすく解説する。

第1部「CM音楽あれこれ～タイプ別リスクポイントの確認」では、CMオリジナルからライブラリー音源の選曲まで、タイプ別にトラブルになりそうなリスクポイントを整理する。

第2部「YouTubeコンテンツIDは怖くない～その仕組みと対応方法」は、YouTubeのコンテンツIDの仕組みや正しい対応方法などを解説する。

スピーカーは、電通ミュージック・アンド・エンタテインメント ミュージック・パブリッシング部部長の中上淳司氏、クロスワープ 取締役COO兼コンテンツセキュリティ事業部長の宮川雄一氏（内容は変更となる場合がある）。

【日時】10月27日／15―17時

【会場】TKP渋谷カンファレンスセンター ホール6A（東京都渋谷区渋谷2―17―3 渋谷東宝ビル）

【参加費】無料（事前登録制）

【参加事前登録】www.natureza.net/seminar/seminar171027

クールジャパン

マッチングフォーラム
アワード候補などを募集

クールジャパン戦略促進のアワード表彰とマッチング商談「クールジャパン・マッチングフォーラム2017」が12月4日に開催されるが、マッチングアワード候補とマッチングメッセ出展者の募集の締め切りが10月18日に迫っている。「クールジャパン官民連携プラットフォーム」は、日本の魅力あるコンテンツなどを軸として異業種が連携し、新たな商品・サービスなどを創出していくことを後押しする組織。同プラットフォームが主催する「クールジャパン・マッチングフォーラム2017」では、異業種連携による先進的なビジネスプロジェクトを表彰する「クールジャパン・マッチングアワード」ならびに、展示・プレゼンなどによる異業種間の商談会「クールジャパン・マッチングメッセ」の審査対象プロジェクト・出展者を募集している。

【応募方法の詳細】公式ウェブサイト（cjmf.jp）を参照

◆クールジャパン・マッチングフォーラム2017

【日時】12月4日／11時―17時30分（予定）

【会場】虎ノ門ヒルズフォーラム 5階ホールA（東京都港区虎ノ門1―23―3 虎の門ヒルズ森タワー）

【問い合わせ】クールジャパン・マッチングフォーラム2017事務局（ヒューマンメディア内）☎03―3401―5806／Eメール＝info@cjmf.jp

イベント

◇8K：VRライド「東京VICTORY」

デジタルコンテンツEXPO2017（10月27―29日）において、NHKメディアテクノロジーおよびNHKエンタープライズが展示・実演する。「8K＋ドーム型ワイドスクリーン＋モーションライド＋5・1chサラウンド」（曲＝サザンオールスターズ『東京VICTORY』）により、ヘッドマウントディスプレーを使わずに、東京の空を時空移動するVR体験ができる（モーションライドは2人乗り）。

体験するには、27日（ビジネスデー）は先着順、28、29日は当日会場で抽選となる（見学は自由）。場所は日本科学未来館（東京都江東区）7階スタジオ。入場無料。

【詳細】www.dcexpo.jp/18178

【デジタルコンテンツEXPO2017開催日時】10月27日（ビジネスデー＝事前登録制）／13―17時、28、29日／10―17時

セミナー

◇番組展開セミナー「国際スタンダードと日本との制作手法の違い」と「海外に売り込むための効果的なトレーラーの作り方」をテーマに、国際市場で話題作を多数プロデュースしている講師を招いてノウハウを伝える。

講師は、Tokyo Docs Academy 2017「Tokyo Docs実行委員会事務局」Eメール＝info@ttvf.jp、info@tokyodocs.jp を担当しているアンティエ・ベーメルト氏（ドイツ）。参加無料。

【日時】10月20日／16―17時

【会場】千代田放送会館2階ホール（東京都千代田区紀尾井町1―1）

【申し込み・詳細】「TVフォーラム／TokyoDocs実行委員会☎03―3401―5806／Eメール＝info@csxnhk.jp、info@tokyodocs.jp

超知的トレンドを徹底視察　CES2018視察ツアー　参加者募集

※CES2018の会期は1月9日～12日になります。　本ツアーでは会期2～4日目のご視察が可能です。

本ツアー参加のメリット

- CES現地最新情報満載の日本語速報レポートをツアー期間中に配布
- 到着日にCES事前説明会の開催（見どころ紹介）
- 映像新聞記者が話題のブースをご案内
- CES登録手続き代行

■旅行期間：2018年1月9日㈫～1月14日㈰ 4泊6日
■訪 問 地：ラスベガス
■旅行代金：【基本コース】お一人様　268,000円
（大人お一人様あたり、ツイン2名1室・エコノミークラス利用）
※上記旅行代金の他に、国内空港施設使用料（2,090円）、旅客保安サービス料（520円）、海外空港諸税（概算6,520円）・燃料サーチャージ（概算13,950円）が別途必要になります。（2017年8月1日現在）
【現地集合・解散コース】お一人様　198,000円
■1人部屋利用追加代金：50,000円（お1人様・4泊分）
■利用航空会社：エア・カナダ（エコノミークラス）
■利用ホテル：（ツイン2名1室利用）
ラスベガス：California Hotel & Casino
■募集人員：15名
■最少催行人員：10名
■食事条件：朝食0回、昼食0回、夕食0回（機内食は除く）
■添 乗 員：同行いたしません。
■申込締切：11月11日（土）
※詳しい旅行条件を記載した書面をお渡ししますので、ご確認の上お申し込みください。

日次	月日（曜）	地　名	現地時間	交通機関	スケジュール	食　事
1	2018年1月9日㈫	成田空港 東京（成田）発	夕方 夜	航空機	成田空港ご集合 空路、バンクーバー乗り継ぎにてラスベガスへ	
		…… 国際日付変更線通過 ……				
		ラスベガス着	夕刻	混乗バス	到着後、アシスタントとご一緒にホテルへ	機内食
		ラスベガス	夜		ホテルチェックイン ■事前説明会 〈ラスベガス泊〉	夕：×
2	1月10日㈬	ラスベガス	朝 終日	シャトルバス	ホテル発、アシスタントとご一緒にCES会場へ ■CES2018視察 視察後、各自ホテルへ 〈ラスベガス泊〉	朝：× 昼：× 夕：×
3	1月11日㈭	ラスベガス	終日	シャトルバス	■CES2018視察 ※各自で自由にご視察ください。 ＊映像新聞社記者によるブースツアーあり（1時間30分程度） 〈ラスベガス泊〉	朝：× 昼：× 夕：×
4	1月12日㈮	ラスベガス	終日	シャトルバス	■CES2018視察 ※各自で自由にご視察ください。 〈ラスベガス泊〉	朝：× 昼：× 夕：×
5	1月13日㈯	ラスベガス	朝	混乗バス	ホテル発、アシスタントとご一緒に空港へ 空港着 空路、バンクーバー乗り継ぎにて成田へ 〈機内泊〉	朝：× 機内食
		ラスベガス発	午後	航空機		
		国際日付変更線通過				
6	1月14日㈰	東京（成田）着	夕刻		到着後、解散	

ご注意／この行程は2017年8月1日現在の運航予定スケジュールを基準としております。発着時間、交通機関等は変更になることがございます。
※部分的に他のお客様と一緒になる可能性がございます。
※混乗バス（別の航空便利用のお客様と一緒のバス）を利用することがあります。
※別の航空便・日程をご希望の場合には、その旨をお申し付けください。別途、受注型契約にてお受けいたします。

●時間帯の目安

早朝	朝	午前	午後	夕刻	夜	深夜
04:00	06:00	08:00	12:00	16:00	18:00	23:00	04:00

企画協力　映像新聞社

お問い合わせ・お申込みは　株式会社JTBコーポレートセールス 新宿第五事業部
〒163-0426東京都新宿区西新宿2-1-1新宿三井ビルディング26階
TEL：03(5909)8102 FAX：03(5909)8110
E-mai：m_maezawa879@bwt.jtb.jp 担当：前澤・井脇・佐伯
営業時間：月～金 9:30～17:30（土・日・祝日休業）
総合旅行業務取扱管理者：渡邉 岳

旅行企画・実施　株式会社JTBコーポレートセールス
観光庁長官登録旅行業第1767号
一般社団法人 日本旅行業協会正会員
東京都千代田区霞が関3-2-5 〒100-6051
ボンド保証会員　旅行業公正取引協議会会員

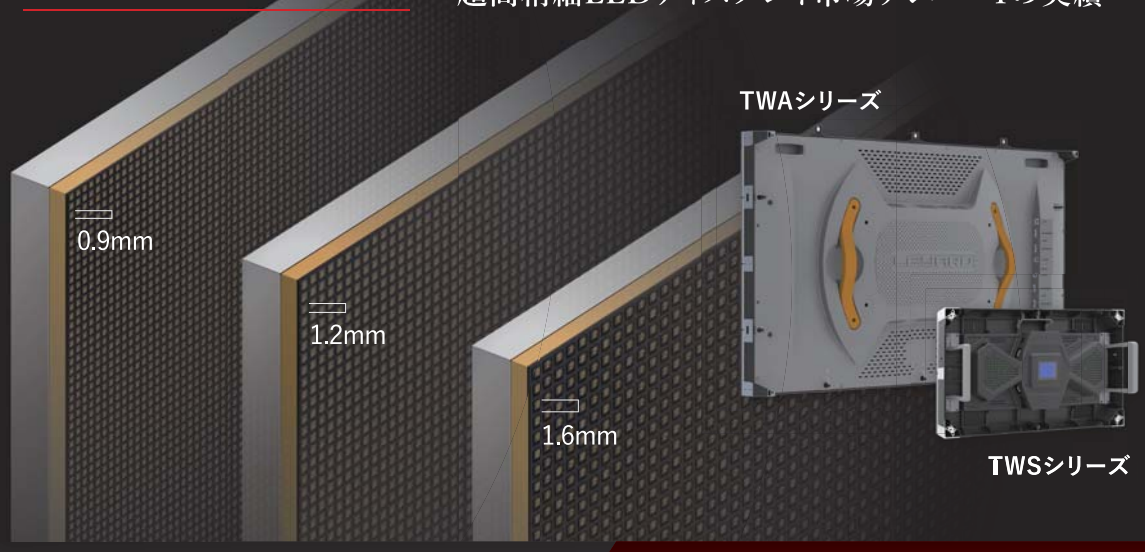
総合旅行業務取扱管理者とはお客様の旅行を取り扱う営業所での取引に関する責任者です。この旅行契約に関し担当者からの説明にご不明な点があればご遠慮なく上記の取扱管理者にお尋ねください。

LEYARD Tokyo JAPAN

レイヤードは、世界第1位のLEDディスプレイ製造会社です。
（2016年売上実績、Futuresource Consulting調べ）

TWS / TWA

レイヤードのLEDディスプレイ技術の結晶
超高精細LEDディスプレイ市場ナンバー1の実績



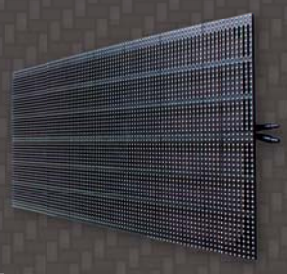
細

Carbon Light

独自のカーボン成型技術で世界最軽量
新たにCLTシステムを搭載し、レンタル及び常設用LEDディスプレイの絶対標準

軽





CLMシリーズ
国内導入数No1の実績を持つ、
屋外用透過型LEDディスプレイ。
世界最軽量8Kg/㎡のカーボンフレームと
CLTシステムを搭載。
ライブステージ用の標準的システム。

CLIシリーズ
屋内用ブラックSMD、2.6mm、3.9mm、5.2mmのラインナップ
超軽量、薄型、CLTシステムによる高画質、
高いコストパフォーマンス。

CLOシリーズ
屋外用ブラックSMD、3.9mm、5.2mmのラインナップ
CLIの手軽さを屋外でも。
ブラックSMD屋外用を搭載した最新鋭シリーズ。



CLT 4K Z6スーパーコントローラ
CLTシステムの根幹となるメインコントローラ。
4K信号を直接入力し、ネイティブドライブする
スプライシング機能を搭載。
10ビット入力、HDR対応、3D対応、8Kキャンバス
エリアなど次世代機能を網羅します。

PLANER

産業用液晶モニタ市場世界1位
圧倒的なコストパフォーマンス、プラナーのパネルディスプレイ

PLANAR A LEYARD Company



▲ **URシリーズ**
大型4K液晶モニタの標準。
強化ガラスとタッチセンサーを装備し、
多彩な用途に対応。

▼ **QEシリーズ**
高いコストパフォーマンスで、
手軽に導入できる大型4K液晶モニタ





LO55
世界唯一の透過型有機ELモニタ。
55インチ、透明ベゼル、マルチ構成などの機能も充実。
※本機は株式会社テレビ朝日サービスが販売代理店となります。

彩

レイヤードジャパン株式会社

LEYARD Tokyo JAPAN

本社	〒171-0021 東京都豊島区西池袋 5-17-12 創業新幹線ビル 6F	TEL 03-6915-2768	Email salesjp@leyard.com
大阪営業所	〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 1-1-1 新大阪阪急ビル 3F	TEL 06-7668-8399	Website http://www.leyard.jp
カスタマーサービス/ロジスティック	〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-24-8 安楽ビル 1F		本社HP http://www.leyard.com
ショールーム	〒171-0021 東京都豊島区西池袋 5-17-12 創業新幹線ビル 5F		

画像はイメージです、実際とは異なる場合があります。